

GA-Z97N-WIFI GA-H97N-WIFI

ユーザーズマニュアル

改版 1001

12MJ-Z97NWIF-1001R

GA-Z97N-WIFI



GA-H97N-WIFI



Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,

G.B.T. Technology Trading GmbH

Address: BullenKoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

Declares that the product

Product Type: Motherboard

Product Name: GA-Z97N-WIFI/GA-H97N-WIFI

conforms with the essential requirements of the following directives:

- 2004/108/EC EMC Directive:**
 - Conduction & Radiated Emissions: EN 55022:2010
 - Immunity: EN 55024:2010
 - Power-line harmonics: EN 61000-3-2:2006+A2:2009
 - Power-line flicker: EN 61000-3-3:2008

- 2006/95/EC LVD Directive**
 - Safety: EN60950-1:2006+A11:2009+A12:2011

- 1999/5/EC R&TTE Directive**
 - Technical Requirements: EN 300 328 v1.8.1
EN 301 489-1 V1.9.2, EN 301 489-17 v2.2.1
EN 301 893 V1.7.1

- 2011/65/EU RoHS Directive**
 - Restriction of use of certain substances in electronic equipment: This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive.

- CE marking



Signature: Timmy Huang

(stamp) Date: May 2, 2014 Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

**Model Number: GA-Z97N-WIFI
GA-H97N-WIFI**

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109 (a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: May 2, 2014

国別に認証されたワイヤレスモジュール:

United States FCC: PD97260HU Canada IC: 1000M-7260H	European Union 	Philippines ESD-1307219C Qatar ICTQATAR/RT/2013/R-3412	United Arab Emirates ER0105789/13
Algeria 300/IR/AGR/PC/ARPT/2013 Australia & New-Zealand 	India AN: NR-ETA / 546 NB: NR-ETA / 547 BN: NR-ETA / 548	Serbia W011 13	Ukraine 10094.001216-13 NB: 10094.001213-13
Brazil Agência Nacional de Telecomunicações 0640-13-2198 (01)07898355950261 <small>Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário.</small>	Japan 003-130044 D13002003 5.15~5.35GHz indoor use only	Singapore Complies with IDA Standards DB 02941	Uruguay URSEC: 210/FR/2013
Chile 2092/DFRS08617/F-50 China AN: CMIIT ID:2013AJ0752 NB: CMIIT ID:2013AJ0757 BN: CMIIT ID:2013AJ0754	Jordan TRC/LPD/2013/113 Mexico AN: RCPIN7213-0646 NB: RCPIN7213-0639 BN: RCPIN7213-0645	South Korea KCC-CRM-INT-7260HWW AN: KCC-CRM-INT-7260HWWAN NB: KCC-CRM-INT-7260HWWNB BN: KCC-CRM-INT-7260HWWBN	
	Morocco MR 7946 ANRT 2013 Nigeria <small>*Connection and use of this communications equipment is permitted by the Nigerian Communications Commission*</small>	Taiwan CCAH13LP0320T1 AN: CCAH13LP0340T7 NB: CCAH13LP0360T0 BN: CCAH13LP0380T6	

GIGABYTEのウェブサイトから最新の安全と規制文書を参照してください。

著作権

© 2014 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 著作権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。

本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

ドキュメンテーションの分類

本製品を最大限に活用できるように、GIGABYTE では次のタイプのドキュメンテーションを用意しています：

- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 詳細な製品情報については、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。

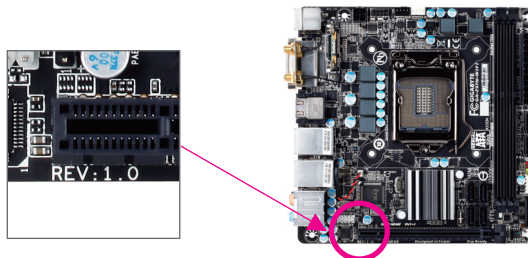
製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.jp>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

例：



目次

ボックスの内容.....	6
GA-Z97N-WIFI/GA-H97N-WIFI マザーボードのレイアウト.....	7
GA-Z97N-WIFI/GA-H97N-WIFI マザーボードマザーボードブロック図.....	8
第1章 ハードウェアの取り付け	9
1-1 取り付け手順.....	9
1-2 製品の仕様.....	10
1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け	13
1-3-1 CPU を取り付ける.....	13
1-3-2 CPU クーラーを取り付ける.....	15
1-4 メモリの取り付け	16
1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定.....	16
1-4-2 メモリの取り付け.....	17
1-5 拡張カードを取り付ける.....	18
1-6 背面パネルのコネクター.....	19
1-7 内部コネクター	22
第2章 BIOS セットアップ	31
2-1 起動画面.....	32
2-2 メインメニュー	33
2-3 M.I.T.	36
2-4 System Information (システムの情報)	45
2-5 BIOS Features (BIOS の機能)	46
2-6 Peripherals (周辺機器).....	50
2-7 Power Management (電力管理).....	54
2-8 Save & Exit (保存して終了).....	56

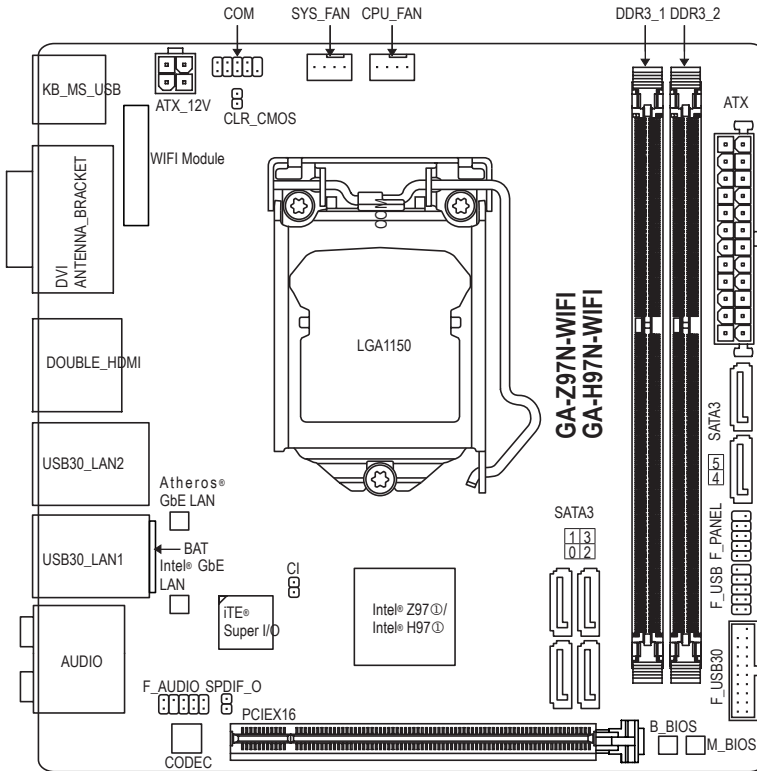
第 3 章	SATA ハードドライブの設定	57
3-1	SATA コントローラーを構成する	57
3-2	SATA RAID/AHCI ドライバーとオペレーティングシステムのインストール	69
第 4 章	付録	73
	ドライバのインストール	73
	規制声明	74
	連絡先	79

ボックスの内容

- ☑ GA-Z97N-WIFIまたはGA-H97N-WIFIマザーボード
- ☑ マザーボードドライバディスク
- ☑ ワイヤレスモジュールドライバーディスク
- ☑ ユーザーズマニュアル
- ☑ クイックインストールガイド
- ☑ SATA ケーブル (x2)
- ☑ I/O シールド
- ☑ アンテナ (x1)

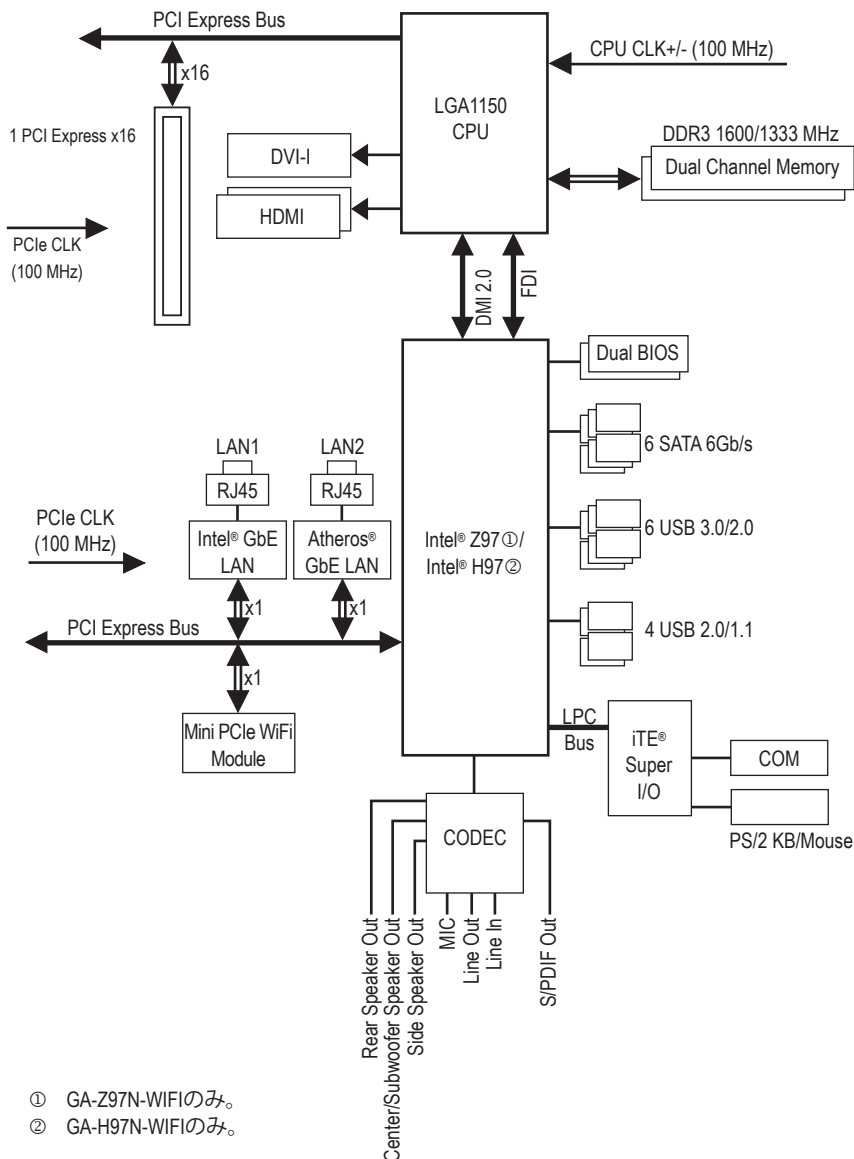
上記、ボックスの内容は参照用となります。実際と同梱物はお求めいただいた製品/パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。

GA-Z97N-WIFI/GA-H97N-WIFI マザーボードのレイアウト



- ① GA-Z97N-WIFIのみ。
- ② GA-H97N-WIFIのみ。

GA-Z97N-WIFI/GA-H97N-WIFI マザーボードマザーボード ドブロック図



- ① GA-Z97N-WIFIのみ。
- ② GA-H97N-WIFIのみ。



製品の情報/制限の詳細は、「1-2 製品の仕様」を参照してください。









第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電 (ESD) の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。








- 取り付け前に、PCケースがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付け前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電 (ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。





1-2 製品の仕様

	CPU	<ul style="list-style-type: none"> ◆ LGA1150 Intel® Core™ i7プロセッサ/Intel® Core™ i5プロセッサ/Intel® Core™ i3プロセッサ/Intel® Pentium®プロセッサ/Intel® Celeron®プロセッサのサポート (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。) ◆ L3 キャッシュは CPUにより異なります
	チップセット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Intel® Z97①/H97② Express チップセット
	メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 最大 16 GB のシステムメモリをサポートする DDR3 DIMM ソケット (x2) <ul style="list-style-type: none"> * Windows 32ビットオペレーティングシステムの制限のため、4 GB以上の物理メモリを取り付けた場合、表示される実際のメモリサイズは取り付けた物理メモリのサイズより小さくなります。 ◆ デュアルチャンネルメモリ対応 ◆ DDR3 1600/1333 MHz メモリモジュールのサポート ◆ 非 ECC メモリモジュールのサポート ◆ XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
	オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 統合グラフィックスプロセッサ： <ul style="list-style-type: none"> - DVI-Iポート(x1)、1920x1200@60Hzの最大解像度をサポートします。 - HDMIポート(x2)、4096x2160@24Hzまたは2560x1600@60Hzの最大解像度をサポートします。 * HDMIバージョン1.4aをサポート。 - 最大3画面の同時表示をサポート * トリプルディスプレイ構成を設定するには、DVIからD-SUBアダプターを使用してD-SUBモニターを接続する必要があります。 - 最大1 GBまでのメモリをシェア可能
	オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Realtek® ALC892 コーデック ◆ ハイディフィニションオーディオ ◆ 2/4/5.1/7.1 チャンネル ◆ S/PDIFアウトのサポート
	LAN	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Intel® GbE LAN チップ (10/100/1000 Mbit)(LAN1) ◆ Atheros® GbE LAN チップ (10/100/1000 Mbit)(LAN2)
	無線通信モジュール	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Wi-Fi 802.11 a/b/g/n/ac、2.4/5GHz デュアルバンドをサポート ◆ Bluetooth 4.0、3.0+HS、2.1+EDR ◆ 11acワイヤレス規格と最大867Mbpsのデータ転送をサポートします。 * 実際のデータ転送速度は、ご使用の機器構成によって異なる場合があります。
	拡張スロット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で動作 (PCI Express x16スロットはPCI Express 3.0規格に準拠しています。) ◆ ワイヤレスコミュニケーションモジュール用のmini-PCI Express スロット (x1)

① GA-Z97N-WIFIのみ。

② GA-H97N-WIFIのみ。

	ストレージ インター フェイス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チップセット： <ul style="list-style-type: none"> - SATA 6Gb/s コネクタ (x6) - SATA RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 のサポート
	USB	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チップセット： <ul style="list-style-type: none"> - USB 2.0/1.1ポート (x4) (背面パネルに2つのポート、内部USBヘッダーを通して2ポートが使用可能) - USB 3.0/2.0ポート (x6) (背面パネルに4つのポート、内部USBヘッダーを通して2ポートが使用可能)
	内部コネ クター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) ◆ 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ SATA 6Gb/s コネクタ (x6) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x1) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ USB 3.0/2.0 ヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x1) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ CMOSクリアジャンパ (x1) ◆ PCケース開閉感知用ヘッダ (x1)
	背面パネルの コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PS/2 キーボード/マウスポート (x1) ◆ HDMIポート (x2) ◆ 無線用アンテナコネクタ (2T2R)(x2) ◆ DVI-Iポート (x1) ◆ USB 3.0/2.0ポート (x4) ◆ USB 2.0/1.1ポート (x2) ◆ RJ-45ポート (x2) ◆ 光学 S/PDIF アウトコネクタ (x1) ◆ オーディオジャック (x5) (センター/サブウーファースピーカーアウト、リアスピーカーアウト、ラインイン、ラインアウト、マイクイン)
	I/O コント ローラー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ iTE® I/O コントローラーチップ
	ハードウェア モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム電圧の検出 ◆ CPU/システム温度検出 ◆ CPU/システムファン速度検出 ◆ CPU/システムファン速度制御 <ul style="list-style-type: none"> * ファン速度コントロール機能のサポートについては、取り付けたクーラーによって異なります。
	BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 64 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AMI UEFI BIOSを搭載 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a, DMI 2.7, SM BIOS 2.7, ACPI 2.0

	独自機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ APP Center のサポート <ul style="list-style-type: none"> * App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。 - @BIOS - EasyTune - EZ Setup - Fast Boot - Cloud Station - ON/OFF Charge - Smart TimeLock - Smart Recovery 2 - System Information Viewer - USB Blocker ◆ Q-Flash のサポート ◆ Smart Switch のサポート ◆ Xpress Install のサポート
	バンドルされたソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン) ◆ Intel® Rapid Start Technology ◆ Intel® Smart Connect Technology ◆ Intel® Smart Response Technology ◆ Intel® Small Business Advantage^{®2} ◆ Intel® Wireless Display
	オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 8.1/8/7 のサポート
	フォームファクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Mini-iTXフォームファクタ、17.0cm x 17.0cm

* GIGABYTEは、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。

* GIGABYTEのWebサイトにある[Support & Downloads/Utility](#)ページにアクセスし、「独自機能」と「バンドルされたソフトウェア」の欄にリストされたソフトウェアがサポートするオペレーティングシステムをご確認ください。

② GA-H97N-WIFIのみ。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け

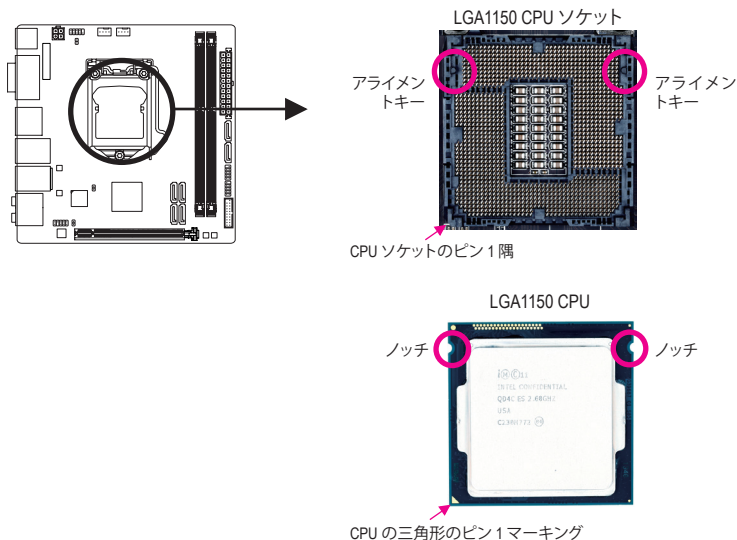


CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。
(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。(または、CPU の両側のノッチと CPU ソケットのアライメントキーを確認します。)
- CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータの電源をオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

1-3-1 CPU を取り付ける

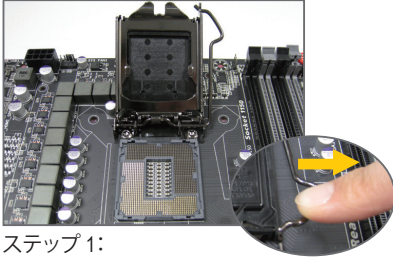
A. マザーボード CPU ソケットのアライメントキーおよび CPU のノッチを確認します。



B. 以下のステップに従って、CPU をマザーボードの CPU ソケットに正しく取り付けてください。



- CPU を取り付けの前に、CPU の損傷を防ぐためにコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- ソケットピンを保護するために、CPU が CPU ソケットに挿入されている場合を除き保護プラスチックカバーを取り外さないでください。



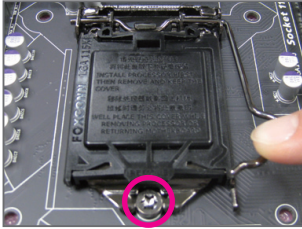
ステップ 1:

CPU ソケットレバーハンドルをそっと押しなが、指でソケットから外します。CPU ソケットレバーを完全に持ち上げると、金属製ロードプレートも持ち上がります。



ステップ 2:

CPU を親指と人差し指で抑えます。CPU ピン 1 のマーキング (三角形) を CPU ソケットのピン 1 隅に合わせ (または、CPU ノッチをソケットアライメントキーに合わせ)、CPU を所定の位置にそっと差し込みます。



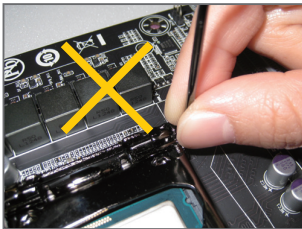
ステップ 3:

CPU が適切に挿入されたら、ロードプレートを慎重に戻します。ロードプレートを交換しているとき、ロードプレートのフロントエンドが肩付きねじの下にあることを確認します。続いて CPU のソケットレバーを押します。レバーをかみ合っている間に、保護プラスチックカバーがロードプレートから外れます。カバーを取り外します。カバーを適切に保管し、CPU が取り付けられていないときは常に CPU に元通りに付けてください。



ステップ 4:

最後に、保持タブの下でレバーを固定し CPU の取り付けを完了します。



注:

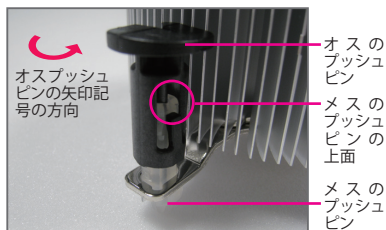
レバーの根元部分ではなく、ハンドルで CPU ソケットレバーを支えます。


1-3-2 CPUクーラーを取り付ける

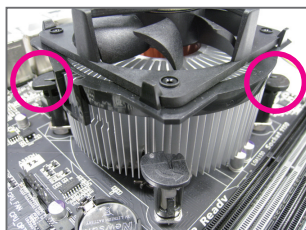
以下のステップに従って、CPUクーラーをマザーボードに正しく取り付けてください。



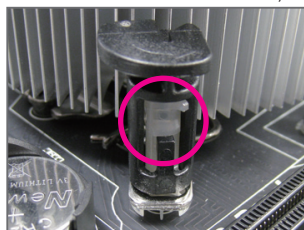
ステップ 1:
取り付けた CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。



ステップ 2:
クーラーを取り付ける前に、オスプッシュピンの矢印記号  の方向に注意してください。(矢印の方向に沿ってプッシュピンを回すとクーラーが取り外され、逆の方向に回すと取り付けられます。)



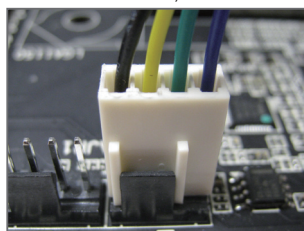
ステップ 3:
クーラーを CPU の上に配置し、マザーボードのピン穴を通して 4つのプッシュピンを揃えます。プッシュピンを、対角方向に押し下げてください。




ステップ 4:
それぞれのプッシュピンを押し下げると、「クリック音」が聞こえます。オスとメスのプッシュピンがしっかり結合していることを確認してください。(クーラーを取り付ける方法については、CPUクーラーの取り付けマニュアルを参照してください。)



ステップ 5:
取り付け後、マザーボードの背面をチェックします。プッシュピンを上図のように差し込むと、取り付けは完了です。



ステップ 6:
最後に、CPUクーラーの電源コネクタをマザーボードの CPU ファンヘッダ (CPU_FAN) に取り付けてください。

 CPUクーラーとCPUの間の熱伝導グリステープはCPUにしっかり接着されているため、CPUクーラーを取り外すときは、細心の注意を払ってください。CPUクーラーを不適切に取り外すと、CPUが損傷する恐れがあります。

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

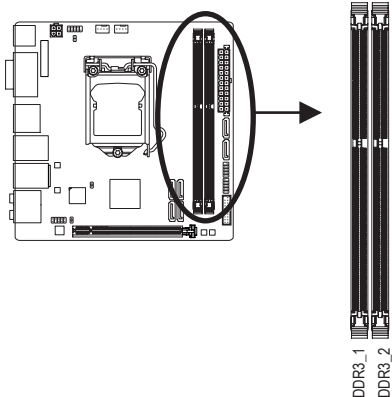
- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えぬようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには2つのDDR3メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を2倍に拡げます。

2つのDDR3メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように1つのメモリソケットがあります：


- ▶▶チャンネルA:DDR3_1
- ▶▶チャンネルB:DDR3_2

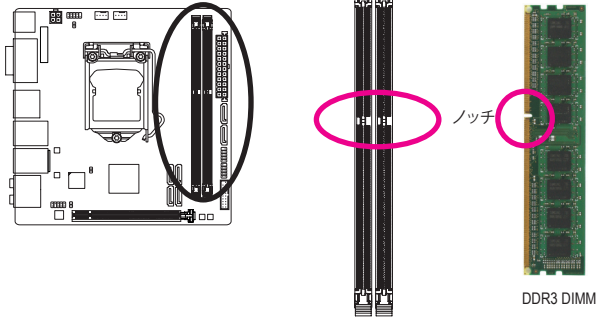


CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

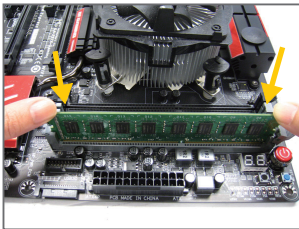
- DDR3メモリモジュールが1枚のみ取り付けられている場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているとき、最適のパフォーマンスを発揮するために同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用するようにお勧めします。

1-4-2 メモリの取り付け

 メモリモジュールを取り付ける前に、メモリモジュールの損傷を防ぐためにコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。DDR3 と DDR2 DIMM は、互換性がありませんのでご注意ください。このマザーボードにDDR3 DIMM を取り付けられていることを確認してください。



DDR3 メモリモジュールにはノッチが付いているため、一方向にしかフィットしません。以下のステップに従って、メモリソケットにメモリモジュールを正しく取り付けてください。



ステップ 1:
メモリモジュールの方向に注意します。メモリソケットの両端の保持クリップを広げます。左の図に示すように、指をメモリの上に置き、メモリを押し下げ、メモリソケットに垂直に差し込みます。



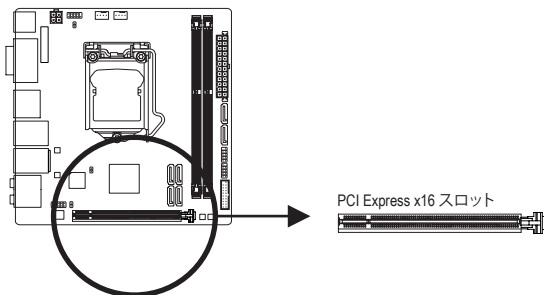
ステップ 2:
メモリモジュールがしっかり差し込まれると、ソケットの右端のクリップがカチッと音を立てて所定の位置に収まります。

1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

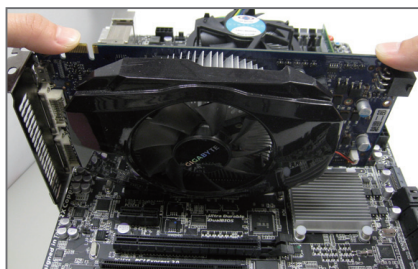
- 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



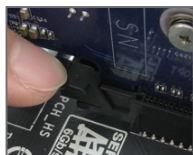
以下のステップに従って、拡張カードを拡張スロットに正しく取り付けてください。

1. カードをサポートする拡張スロットを探します。PCケース背面パネルから、金属製スロットカバーを取り外します。
2. カードをスロットに合わせ、スロットに完全にはまりこむまでカードを押し下げます。
3. カードの金属接点がスロットに完全に挿入されていることを確認します。
4. カードの金属ブラケットをねじでPCケース背面パネルに固定します。
5. 拡張カードをすべて取り付けたら、PCケースカバーを元に戻します。
6. コンピュータの電源をオンにします。必要に応じて、BIOSセットアップに移動し拡張カードに必要なBIOS変更を行います。
7. 拡張カードに付属するドライバをオペレーティングシステムにインストールします。

例えば：PCI Expressグラフィックスカードの取り付けと取り外し：

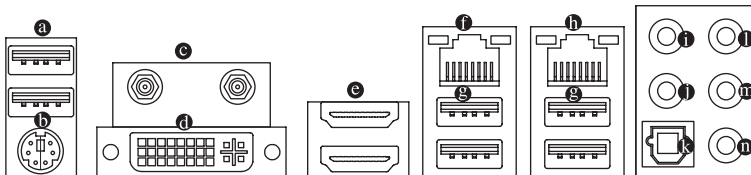


- グラフィックスカードを取り付ける：
カードの上端がPCI Expressスロットに完全に挿入されるまで、そっと押し下げます。カードがスロットにしっかり装着され、ロックされていることを確認します。



- カードを取り外す：
スロットのレバーをそっと押し返し、カードをスロットからまっすぐ上に持ち上げます。

1-6 背面パネルのコネクター



a USB 2.0/1.1 ポート

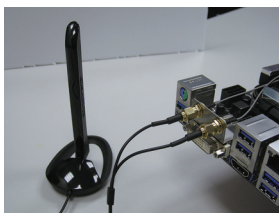
USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

b PS/2キーボード/マウスポート

このポートを使用して、PS/2マウスまたはキーボードを接続します。

c 無線用アンテナコネクター (2T2R)

このコネクターを用いてアンテナを接続します。



アンテナケーブルをアンテナコネクターに接続し、シグナルの強いところへアンテナを移動します。

d DVI-I ポート

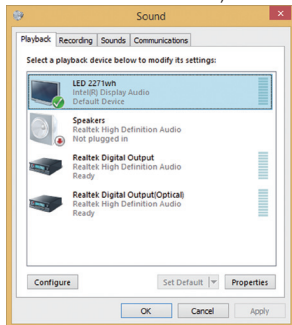
DVI-IポートはDVI-I仕様に準拠しており、1920x1200@60Hzの最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニターによって異なります。)DVI-I接続をサポートするモニターをこのポートに接続してください。

e HDMI ポート

HDMITM HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE HDMIポートはHDCPTMに対応し、ドルビー True HDおよびDTS HDマスターオーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/24ビットの8チャンネルPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニターに接続します。サポートする最大解像度は4096x2160@24Hzまたは2560x1600@60Hzですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



HDMI機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器をHDMIに設定してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。以下のスクリーンショットはWindows 8.1のものです。)



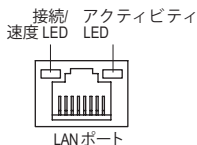
Windows 8.1で、Apps>コントロールパネル>ハードウェアおよびサウンド>サウンド>再生を選択し、Intel(R) Display Audioをデフォルト再生デバイスに設定します。

オンボードグラフィックスに対するトリプルディスプレイ構成:

トリプルディスプレイ構成を設定するには、DVIからD-SUBアダプターを使用してD-SUBモニターを接続する必要があります。トリプルディスプレイ構成は、OSにマザーボードドライバをインストール後にサポートされます。BIOSセットアップまたはPOST動作時は、デュアルディスプレイ構成のみがサポートされます。

❶ RJ-45 LAN ポート (LAN2)

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。



接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

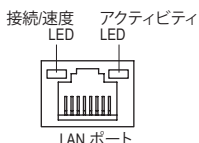
状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

❷ USB 3.0/2.0 ポート

USB 3.0 ポートは USB 3.0 仕様をサポートし、USB 2.0/1.1 仕様と互換性があります。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

❸ RJ-45 LAN ポート (LAN1)

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。



接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オン	データを送受信していません

❹ センター/サラウンドスピーカーアウト (オレンジ)

このオーディオジャックを使って、5.1/7.1チャンネルオーディオ構成のセンター/サブウーファースピーカーを接続します。

❺ リアスピーカーアウト (黒)

このジャックは4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

❻ 光学 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに光学デジタルオーディオインコネクタが装備されていることを確認してください。

❼ ラインイン (青)

デフォルトのラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

❽ ラインアウト (緑)

ラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは2チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックは4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

❾ マイクイン (ピンク)

マイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

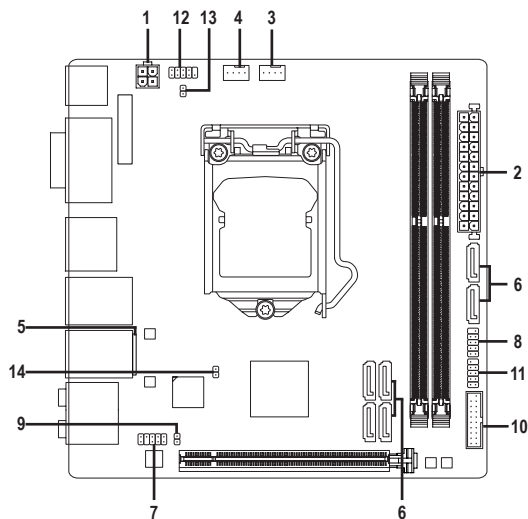


オーディオジャックは、異なる機能を実行するためオーディオソフトウェアを介して再構成することができます(各ジャックでサポートする機能は、ハードウェアの仕様により異なります)。側面スピーカーを設置する場合、オーディオジャックから側面スピーカーに出力するよう設定しなおす必要があります。マイクだけは、デフォルトのマイクインジャックに接続する必要があります。



- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

1-7 内部コネクタ



1)	ATX_12V	8)	F_PANEL
2)	ATX	9)	SPDIF_O
3)	CPU_FAN	10)	F_USB30
4)	SYS_FAN	11)	F_USB
5)	BAT	12)	COM
6)	SATA3 0/1/2/3/4/5	13)	CLR_CMOS
7)	F_AUDIO	14)	CI



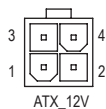
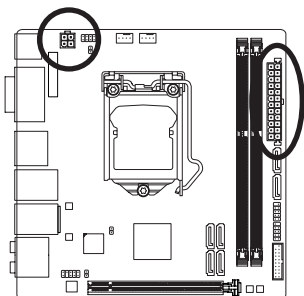
外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータの電源がオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータの電源をオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクタと 2x12 メイン電源コネクタ)

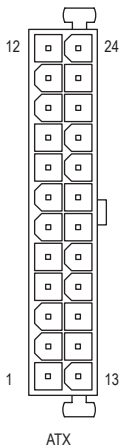
電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。

12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。



ATX_12V:

ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

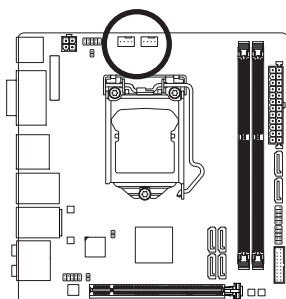


ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN (ファンヘッダ)

このマザーボードのファンヘッダはすべて4ピンです。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PCケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御

SYS_FAN:

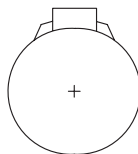
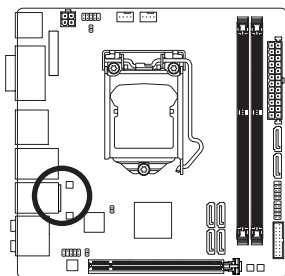
ピン番号	定義
1	GND
2	速度制御
3	検知
4	+5V



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているときCMOSの値(BIOS設定、日付、および時刻情報など)を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。CMOS値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS値を消去できます：

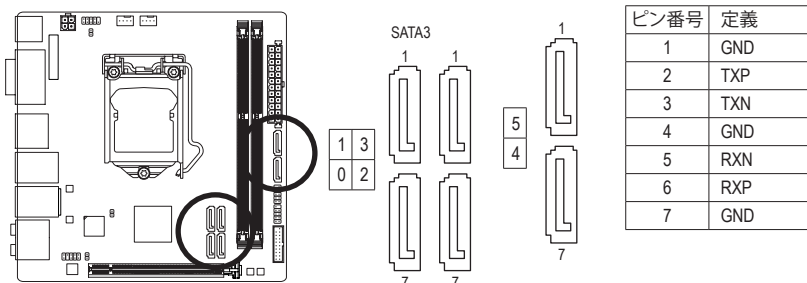
1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1分待ちます。(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータの電源をオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、破裂する恐れがあります。
- バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側(+)とマイナス側(-)の方向に注意してください(プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

6) SATA3 0/1/2/3/4/5 (SATA 6Gb/sコネクタ)

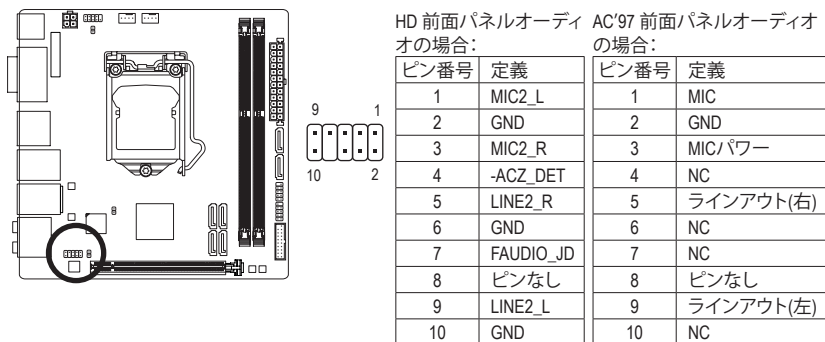
SATA コネクタはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。Intel® チップセットは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 をサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「SATAハードドライブを構成する」を参照してください。



- RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。2 台のハードドライブを使用する場合、ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります。
- RAID 5 設定は、少なくとも 3 台のハードドライブを必要とします。(ハードドライブの総数は偶数に設定する必要がありません)。
- RAID 10 構成には、ハードドライブが4台必要となります。
- SATAポート ホットプラグを有効にするには、第2章を参照してください、「BIOSセットアップ」、「周辺機器/SATA設定」を参照してください。

7) F. AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

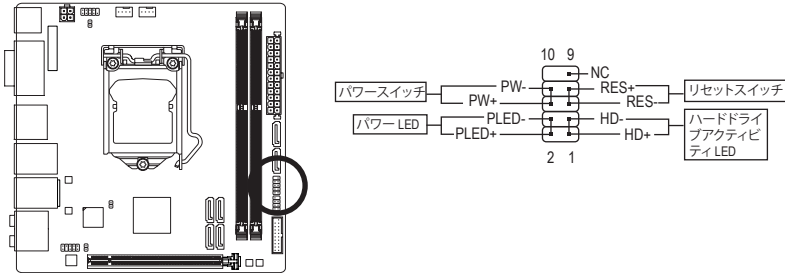
前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。PCケース前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。



- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準でHDオーディオをサポートしています。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。
- PCケースの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一コネクタの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、PCケースメーカーにお問い合わせください。

8) F. PANEL (前面パネルヘッダ)

電源スイッチ、リセットスイッチおよびシステム・ステータス・インジケータを下記のピン割り当てに従ってこのヘッダに接続します。接続する際には、+と-のピンに注意してください。



• PLED (電源LED、黄):

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LEDはオンになります。システムがS3/S4スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき(S5)、LEDはオフになります。

• PW (パワースイッチ、赤):

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます(詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」、「電力管理、」を参照してください)。

• HD (ハードドライブアクティビティLED、青):

PCケース前面パネルのハードドライブアクティビティLEDに接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LEDはオンになります。

• RES (リセットスイッチ、緑):

PCケース前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

• NC (紫):

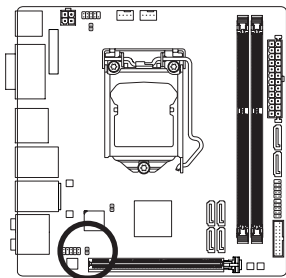
接続なし。



前面パネルのデザインは、ケースによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、ハードドライブアクティビティLEDなどで構成されています。ケース前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

9) SPDIF_O (S/PDIFアウトヘッダ)

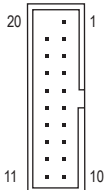
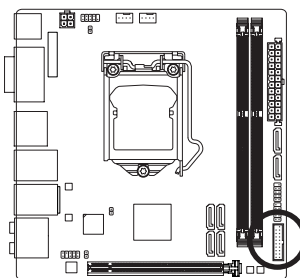
このヘッダはデジタルS/PDIFアウトをサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/PDIFデジタルオーディオケーブル(拡張カードに付属)を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMIディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/PDIFデジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。S/PDIFデジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。



ピン番号	定義
1	SPDIFO
2	GND

10) F_USB30 (USB 3.0/2.0 ヘッダ)

ヘッダはUSB 3.0/2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.0/2.0対応 2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、販売店にお問い合わせください。



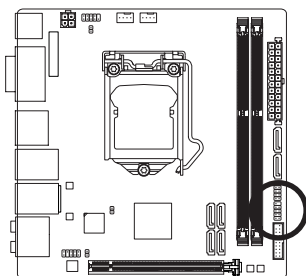
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	11	D2+
2	SSRX1-	12	D2-
3	SSRX1+	13	GND
4	GND	14	SSTX2+
5	SSTX1-	15	SSTX2-
6	SSTX1+	16	GND
7	GND	17	SSRX2+
8	D1-	18	SSRX2-
9	D1+	19	VBUS
10	NC	20	ピンなし



USB前面パネルを取り付ける前に、USB前面パネルが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

11) F_USB (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



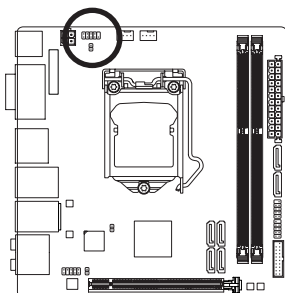
ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB 2.0/1.1 ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

12) COM (シリアルポートヘッダ)

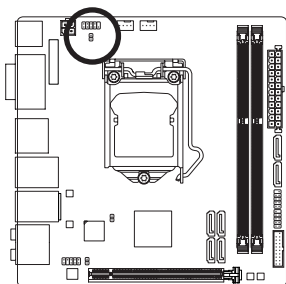
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。





ピン番号	定義
1	NDCC-
2	NSIN
3	NSOUT
4	NDTR-
5	GND
6	NDSR-
7	NRTS-
8	NCTS-
9	NR1-
10	ピンなし

13) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパー)

このジャンパーを使用して BIOS 設定をクリアするとともに、CMOS 値を出荷時設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ドライバーのような金属製品を使用して2つのピンに数秒間触れます。



 オープン:Normal

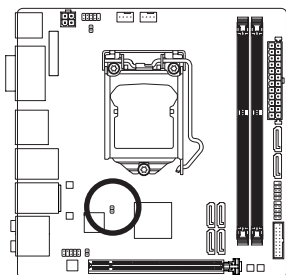
 ショート:CMOSのクリア



- CMOS値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第2章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

14) CI (ケース開閉感知ヘッダ)

このマザーボードには、PCケースカバーが取り外された場合に検出するPCケース検出機能が搭載されています。この機能には、ケース侵入検出設計を施したPCケースが必要です。



1 

ピン番号	定義
1	信号
2	GND

第 2 章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。



- BIOSの更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたはクリア CMOS ジャンパ概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。



機能キー：

:BIOS SETUP|Q-FLASH

<Delete>キーを押してBIOSセットアップに入り、BIOSセットアップでQ-Flashユーティリティにアクセスします。

<F9>:SYSTEM INFORMATION

<F9> キーを押すとシステム情報が表示されます。

<F12>:BOOT MENU

起動メニューにより、BIOS セットアップに入ることなく第 1 起動デバイスを設定できます。起動メニューで、上矢印キー <↑> または下矢印キー <↓> を用いて第 1 起動デバイスを選択し、次に <Enter> キーを押して確定します。システムはそのデバイスから起動します。

注：起動メニューの設定は 1 回のみ有効です。システム再起動後のデバイスの起動順序は BIOS セットアップの設定の順序となります。

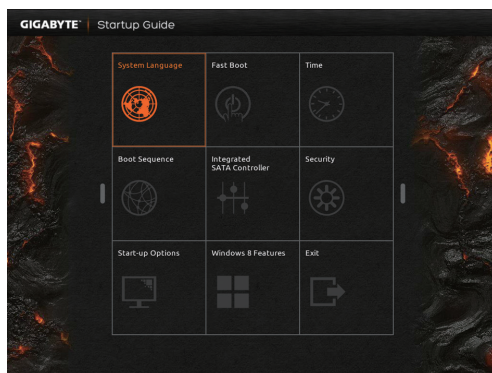
<END>:Q-FLASH

<End> キーを押すと、先に BIOS セットアップに入る必要なく直接 Q-Flash Utility にアクセスします。

2-2 メインメニュー

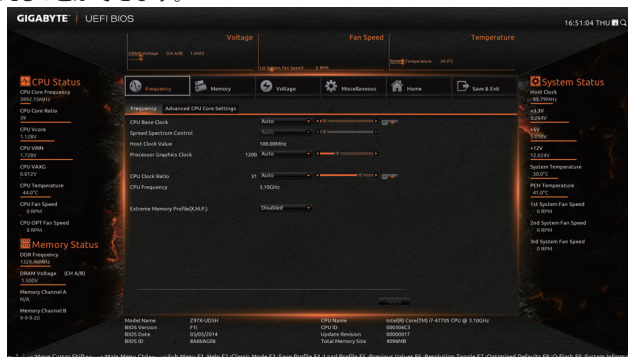
A. Startup Guide (デフォルト)

スタートアップガイド画面は、従来の複雑なBIOSセットアップメニューを最も頻繁に使用されるオプションを使い易いインターフェイスで表示されます。これは、より迅速かつ簡単に基本的なシステム設定を行うことができます。



B. ST Mode (Smart Tweak Mode)①

従来の UEFI インターフェイスとは異なり、ST モードでは、ユーザーが様々な設定を簡単にポイント・クリックして、最適なパフォーマンスを得るための調整を行うことができるファンシーかつユーザーフレンドリーな BIOS 環境を提供します。STモードは、設定オプション間をマウスを使用して移動することができます。<F2>キーのメニューは、クイック構成や従来のBIOS設定画面に切り替えることができます。



- ・システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- ・本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

① GA-Z97N-WIFIのみ。

C. Classic Setup

クラシック・セットアップは、従来のBIOSセットアップのインターフェイスです。入力する項目を選択してEnterキーを押して設定します。設定項目間を移動する場合、キーボードの矢印キーを押して設定することができます。または、お使いのマウスで希望する項目を選択することができます。

(サンプル BIOS バージョン:GA-Z97N-WIFI F1g)



Classic Setupのファンクションキー

<<><>>	選択バーを移動させてセットアップメニューを選択します。
<↑><↓>	選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。
<Enter>	コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。
<+><Page Up>	数値を上昇させるかまたは変更を行います。
<-><Page Down>	数値を下降させるかまたは変更を行います。
<F2>	STモードのまたは、スタートアップガイド画面に切り替えることができます。
<F5>	現在のメニュー用に前の BIOS 設定を復元します。
<F7>	現在のメニュー用に最適化された BIOS の初期設定を読み込みます。
<F8>	Q-Flash Utility にアクセスします。
<F9>	システム情報を表示します。
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。
<F12>	現在の画面を画像としてキャプチャし、USB ドライブに保存します。
<Esc>	メインメニュー: BIOS セットアッププログラムを終了します。 サブメニュー: 現在のサブメニューを終了します。

① GA-Z97N-WIFIのみ。

BIOS セットアップメニュー

- **M.I.T.**
このメニューを使用して、CPU、メモリなどのクロック、周波数、および電圧を設定します。またはシステムや CPU の温度、電圧、およびファンの速度をチェックします。
- **System Information**
このメニューを使用して、BIOS が使用する既定の言語、システムの時間と日付を設定します。
- **BIOS Features (BIOS の機能)**
このメニューを使用して、デバイスの起動順序、CPU で使用可能な拡張機能を設定します。
- **Peripherals (周辺機器)**
このメニューを使用して、SATA、USB、オンボードオーディオ、オンボードLANなどの周辺機器をすべて設定します。
- **Power Management (電力管理)**
このメニューを使用して、すべての省電力機能を設定します。
- **Save & Exit**
BIOS セットアッププログラムで行われたすべての変更を CMOS に保存して BIOS セットアップを終了します。プロファイルに現在の BIOS 設定を保存したり、最適なパフォーマンスを実現するために最適化されたデフォルト値をロードすることができます。

2-3 M.I.T.



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させると、CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)



表示内容については、BIOSバージョン、CPUベースクロック、CPU周波数、メモリ周波数、合計メモリサイズ、CPU温度、Vcore、およびメモリ電圧に関する情報が表示されます。

▶ **M.I.T.Current Status (M.I.T 現在のステータス)**

このセクションには、CPU/メモリ周波数/パラメータに関する情報が表示されます。

▶ **Advanced Frequency Settings (周波数の詳細設定)**



○ **Performance Upgrade①(注)**

5つのオーバークロック設定が可能です。オプション:20% Upgrade、40% Upgrade、60% Upgrade、80% Upgrade、100% Upgrade。(既定値:Auto)

○ **CPU Base Clock**

CPUベースクロックを 0.01 MHz 刻みで手動で設定します。(既定値:Auto)
重要:CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。

○ **Host/PCIe Clock Frequency①(注)**

ホストクロック周波数 (CPU、PCIe、およびメモリの周波数を制御) を 0.01MHz 単位で手動設定することが可能です。**CPU Base Clock** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

○ **Processor Base Clock (Gear Ratio)①(注)**

複数のプリセットのホストクロック マルチプライヤによって **Host/PCIe Clock Frequency** を通倍させることで **Processor Base Clock** を設定できます。**CPU Base Clock** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

○ **Spread Spectrum Control①(注)**

CPU/PCI Express スペクトラム拡散を、有効または無効にします。(既定値:Auto)

○ **Host Clock Value①**

この値は、**Host/PCIe Clock Frequency** 値と **Processor Base Clock(Gear Ratio)** の値を掛けることで決定されます。

○ **Processor Graphics Clock**

オンボードグラフィックスクロックを設定できます。調整可能な範囲は 400 MHz~4000 MHz の間です。(既定値:Auto)

○ **CPU Upgrade(注)**

CPUの周波数を設定できます。設定は搭載するCPUによって異なります。(既定値:Auto)

① GA-Z97N-WIFIのみ。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

- **CPU Clock Ratio**
取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。
- **CPU Frequency**
現在作動している CPU 周波数を表示します。
- ▶ **Advanced CPU Core Settings (CPUの詳細設定)**



- **CPU Clock Ratio, CPU Frequency**
上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。
- **K OC** (注)
特定のCPUを使用した場合に、パフォーマンスが向上します。(既定値: Auto)
- **CPU PLL Selection**
CPU PLLを設定します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **Filter PLL Level**
フィルター PLLを設定します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **Uncore Ratio**
CPU の Uncore ratio を設定できます。調整可能範囲は、使用される CPU によって異なります。
- **Uncore Frequency**
現在の CPU Uncore 周波数を表示します。
- **Intel(R) Turbo Boost Technology** (注)
Intel CPU Turbo Boost テクノロジー機能の設定をします。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **Turbo Ratio (1-Core Active~4-Core Active)** (注)
さまざまな数のアクティブなコアに対して、CPU Turbo比を設定できます。**Auto** では、CPU仕様に従って CPU Turbo 比を設定します。(既定値: Auto)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

- ☞ **Turbo Power Limit (Watts)**
 CPU Turboモードの電力制限を設定できます。CPU の消費電力がこれらの指定された電力制限を超えると、CPU は電力を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。**Auto** では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **Core Current Limit (Amps)**
 CPU Turboモードの電流制限を設定できます。CPU の電流がこれらの指定された電流制限を超えると、CPU は電流を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。**Auto** では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **No. of CPU Cores Enabled** (注1)
 使用するCPUコアを選択します。(選択可能なCPUコア数については、CPUによって異なります。) **Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **Hyper-Threading Technology** (注1)
 この機能をサポートする Intel® CPU 使用時にマルチスレッディングテクノロジーの有効/無効を切り替えます。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **CPU Enhanced Halt (C1E)** (注1)
 システム一時停止状態時の省電力機能で、Intel® CPU Enhanced Halt (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **C3 State Support** (注1)
 システムが停止状態になっているとき、CPU が C3 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C3状態は、C1 より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **C6/C7 State Support** (注1)
 システムが停止状態になっているとき、CPU が C6/C7 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C6/C7 状態は、C3 より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **CPU Thermal Monitor** (注1)
 CPU 過熱保護機能である Intel® Thermal Monitor 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPUが過熱すると、CPU コア周波数と電圧が下がります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **CPU EIST Function** (注1)
 Enhanced Intel® Speed Step 技術 (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU負荷によっては、Intel EIST技術はCPU電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、消費電力と熱発生量を低下させます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)**(注2)
 有効にすると、BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。

 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶▶ Profile1 プロファイル1 設定を使用します。
 - ▶▶ Profile2 (注2) プロファイル2 設定を使用します。

(注1) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

(注2) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

System Memory Multiplier

システムメモリマルチプライヤの設定が可能になります。Auto は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値:Auto)

Memory Frequency (MHz)

最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2 番目の値は System Memory Multiplier 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。

Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)



Extreme Memory Profile (X.M.P.)^①、System Memory Multiplier、Memory Frequency(MHz) 上の項目の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目と同期しています。

Memory Overclocking Profiles ^①(注)

メモリの周波数を設定できます。設定は搭載するメモリによって異なります。(既定値:Disabled)

Memory Boot Mode

メモリチェックと動作方法の設定を行います。

- ▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
- ▶▶ Enable Fast Boot 高速メモリブート可能なメモリ検出を行います。
- ▶▶ Disable Fast Boot ブート時にメモリ1本1本の順にチェックを行います。

Memory Enhancement Settings (メモリの拡張設定)

3種類のメモリーパフォーマンスの設定を行います: Normal (基本性能)、Enhanced Stability、Enhanced Performance。(既定値:Normal)

Memory Timing Mode

ManualとAdvanced Manualでは、Channel Interleaving、Rank Interleaving、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション:Auto (既定値)、Manual、Advanced Manual。

① GA-Z97N-WIFIのみ。

(注) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

○ Profile DDR Voltage

Non-XMPメモリーモジュール、または**Extreme Memory Profile (X.M.P.)**を使用する場合は無効に設定され、その値は、メモリの仕様に応じて表示されます。**Extreme Memory Profile (X.M.P.)**が**Profile1**または**Profile2**にセットされるとき、値がXMPメモリ上のSPDデータに基づいて表示されます。

○ Channel Interleaving

メモリチャンネルのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled (有効)** 設定にすると、システムはメモリのさまざまなチャンネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

○ Rank Interleaving

メモリランクのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled (有効)** 設定すると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。(既定値: Auto)

▶ Channel A/B Memory Sub Timings



このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリ タイミング設定を行います。このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリ タイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、**Memory Timing Mode** が **Manual** または **Advanced Manual** の場合のみ設定可能です。注:メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

▶ Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)



このサブメニューにより、CPU、チップセット、およびメモリ電圧の設定が可能になります。

▶ PC Health Status



☞ Reset Case Open Status

- ▶ Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
- ▶ Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。

☞ Case Open

マザーボードのCIヘッダに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

☞ CPU Vcore/CPU VRIN/DRAM Voltage/+3.3V/+5V/+12V/CPU VAXG

現在のシステム電圧を表示します。

☞ CPU/System Temperature

現在の CPU/システムの温度を表示します。

☞ CPU/System Fan Speed

現在の CPU/システム/パワーファン速度を表示します。

☞ CPU Fan Speed Control

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

- ▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
- ▶ Silent ファンを低速度で作動します。
- ▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
- ▶ Full Speed ファンを全速で作動します。

☞ Fan Speed Percentage

ファン速度をコントロールします。**CPU Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。

System Fan Speed Control

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

- ▶ Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
- ▶ Silent ファンを低速度で作動します。
- ▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
- ▶ Full Speed ファンを全速で作動します。

Fan Speed Percentage

ファン速度をコントロールします。**System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。

Miscellaneous Settings (その他の設定)



PCI Slot Configuration

PCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、またはGen 3に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。(既定値: Auto)

DMI Gen2 Speed

DMIリンク速度を構成する事ができます。

- ▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。
- ▶ Enabled DMIリンク速度をGen2にセットします。(既定値)
- ▶ Disabled DMIリンク速度をGen1にセットします。

3DMark01 Boost

一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。(既定値: Disabled)

2-4 System Information (システムの情報)



このセクションでは、マザーボード モデルおよび BIOS バージョンの情報を表示します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

System Language

BIOS が使用する既定の言語を選択します。

System Date

システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

System Time

システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:0:0 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセスレベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では Administrator (管理者) として表示されます。) 管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザーレベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

2-5 BIOS Features (BIOS の機能)



○ Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイス リストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージデバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーティショニングをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 7 (64 ビット) など GPT パーティショニングをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

○ Bootup NumLock State

POST後にキーボードの数字キーパッドにあるNumLock機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

Security Option

パスワードは、システムが起動時、または BIOS セットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Administrator Password/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- ▶▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)

Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTE ロゴの表示設定をします。**Disabled** にすると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。(既定値: Enabled)

Fast Boot

Fast Boot を有効または無効にして OS の起動処理を短縮します。**Ultra Fast** では起動速度が最速になります。(既定値: Disabled)

VGA Support

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

- ▶▶ Auto 従来のオプション ROM のみを有効にします。
- ▶▶ EFI Driver EFI オプション ROM を有効にします。(既定値)

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

USB Support

- ▶▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 USB デバイスは無効になっています。
- ▶▶ Full Initial オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。
- ▶▶ Partial Initial OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になっています。(既定値)

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この項目は無効になります。

PS2 Devices Support

- ▶▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 PS/2 デバイスは無効になっています。
- ▶▶ Enabled オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 PS/2 デバイスは機能します。(既定値)

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この項目は無効になります。

NetWork Stack Driver Support

- ▶▶ Disabled ネットワークからのブートを無効にします。(既定値)
- ▶▶ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

Next Boot After AC Power Loss

- ▶▶ Normal Boot 電源復帰後に通常起動をします。(既定値)
- ▶▶ Fast Boot 電源復帰後も Fast Boot 設定を維持します。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

- ☞ **Limit CPUID Maximum** (注)

CPUID 最大値の制限設定を行います。Windows XP ではこのアイテムを **Disabled** に設定し、Windows NT4.0 など従来のオペレーティングシステムでは **Enabled** に設定します。(既定値: Disabled)
- ☞ **Execute Disable Bit** (注)

Intel® Execute Disable Bit (Intelメモリ保護) 機能の有効/無効を切り替えます。この機能は、コンピュータの保護を拡張して、サポートするソフトウェアおよびシステムと一緒に使用することでウィルスの放出および悪意のあるバッファのオーバーフロー攻撃を減少させることができます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Intel Virtualization Technology** (注)

Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。Intel®仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Intel TXT(LT) Support** (注)

Intel® Trusted Execution Technology (Intel® TXT) を有効または無効にします。Intel® Trusted Execution Technology は、ハードウェアベースのセキュリティを提供します。(既定値: Disabled)
- ☞ **Dynamic Storage Accelerator**①

Intel® Dynamic Storage Accelerator を有効または無効にします。有効にすると、ハードドライブの負荷に従って入出力性能が調整されます。(既定値: Disabled)
- ☞ **VT-d** (注)

Directed I/O 用 Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Windows 8 Features**

インストールするオペレーティングシステムを選択することができます。(既定値: Other OS)
- ☞ **CSM Support**

従来のPC起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

 - ▶ Always UEFI CSMを有効にします。(既定値)
 - ▶ Never UEFI CSMを無効にし、UEFI BIOS起動プロセスのみをサポートします。

Windows 8 Features が **Windows 8** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ☞ **Boot Mode Selection**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

 - ▶ UEFI and Legacy 従来のオプションROMまたはUEFIのオプションROMをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。(既定値)
 - ▶ Legacy Only 従来のオプションROMのみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。
 - ▶ UEFI Only UEFIのオプションROMのみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ☞ **LAN PXE Boot Option ROM**

LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。(既定値: Disabled)

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ☞ **Storage Boot Option Control**

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

 - ▶ Disabled オプションROMを無効にします。

① GA-Z97N-WIFIのみ。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

- ▶▶ Legacy only レガシーのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
- ▶▶ UEFI only UEFIのオプションROMのみを有効にします。
- ▶▶ Legacy First レガシーのオプションROMを先に有効にします。
- ▶▶ UEFI First UEFIのオプションROMを先に有効にします。

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Other PCI Device ROM Priority**

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ▶▶ Legacy OpROM 従来のオプションROMのみを有効にします。
- ▶▶ UEFI OpROM UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Network stack**

Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)

☞ **IPv4 PXE Support**

IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **IPv6 PXE Support**

IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **Administrator Password**

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。

☞ **User Password**

ユーザーパスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。しかし、ユーザーパスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

2-6 Peripherals (周辺機器)



Initial Display Output

取り付けた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

- ▶▶ IGFX 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
- ▶▶ PCIe 1 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。(既定値)

PCH LAN Controller (Intel® GbE LAN チップ)(LAN1)

Intel® GbE LAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。

XHCI Mode

OSのxHCIコントローラーのオペレーティングモードを決定できます。

- ▶▶ Smart Auto BIOSがブート前環境でxHCIコントローラーをサポートしている場合のみこのモードが使用可能です。このモードはAutoに類似していますが、ブート前環境で(非G3ブートの場合) 前回ブート時に使用した設定に従ってxHCIまたはEHCIにポートをルーティングする機能を追加します。OSの起動前にUSB 3.0デバイスの使用が可能になります。前回のブートでポートをEHCIにルーティングした場合、xHCIコントローラーの有効化とリルーティングは、Autoのステップに従って行います。注: BIOSがxHCIの起動前サポートに対応している場合に推奨するモードです。(既定値)
- ▶▶ Auto BIOSは、共有ポートをEHCIコントローラーにルーティングします。続いて、ACPIプロトコルを用いてxHCIコントローラーの有効化と共有ポートのリルーティングを可能にするオプションを提供します。注: BIOSがxHCIのブート前サポートに対応していない場合に推奨するモードです。
- ▶▶ Enabled 結果として、すべての共有ポートがBIOSの起動プロセス中にxHCIコントローラーにルーティングされます。BIOSがxHCIコントローラーの起動前サポートに対応していない場合、最初は共有ポートをEHCIコントローラーにルーティングし、その後OSブートの前にポートをxHCIコントローラーにルーティングする必要があります。注: このモードではOSがxHCIコントローラーをサポートしている必要があります。OSがサポートしていない場合、す

- すべての共有ポートが動作しません。
- ▶ Disabled USB 3.0ポートはEHCIコントローラーにルーティングし、xHCIコントローラーをオフにします。すべてのUSB 3.0デバイスは、xHCIソフトウェアのサポートが使用可能かに関係なく高速デバイスとして機能します。
- ⊟ **Audio Controller**
オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製拡張オーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- ⊟ **Intel Processor Graphics**
オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- ⊟ **Intel Processor Graphics Memory Allocation**
オンボードグラフィックスのメモリサイズを設定できます。オプション: 32M~1024M。(既定値: 64M)
- ⊟ **DVMT Total Memory Size**
オンボードグラフィックスのDVMTメモリサイズを割り当てることができます。オプション: 128M、256M、MAX。(既定値: MAX)
- ⊟ **Intel(R) Rapid Start Technology**
Intel® Rapid Start テクノロジーを有効または無効にします。(既定値: Disabled)
- ⊟ **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値: Enabled)
- ⊟ **XHCI Hand-off**
XHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの XHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値: Enabled)
- ⊟ **EHCI Hand-off**
EHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの EHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値: Disabled)
- ⊟ **USB Storage Devices**
接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。
- ⊟ **Two Layer KVM Switch**
2つのKVMスイッチを繋ぐ場合、適切なデバイスの機能性を確保するために、**有効**に設定してください。(既定値: Disabled)
- ⊟ **OnBoard LAN Controller#1 (Atheros GbE LAN チップ)(LAN2)**
Atheros® GbE LAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

▶ SATA Configuration



○ Integrated SATA Controller

統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)

○ SATA Mode Selection

チップセットに統合されたSATAコントローラー用のRAIDの有効/無効を切り替えるか、SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。

- ▶▶ IDE SATAコントローラーをIDEモードに構成します。
- ▶▶ RAID SATAコントローラーに対してRAIDモードを有効にします。
- ▶▶ AHCI SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバがNCQ (ネイティブ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)

▶ Serial ATA Port 0/1/2/3/4/5

○ Port 0/1/2/3/4/5

各SATAポートを有効または無効にします。(既定値:Enabled)

○ Hot plug

各SATAポートのホットプラグ機能を有効または無効にします。(既定値:Disabled)

○ External SATA

追加SATAデバイスの有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)

☞ **Super IO Configuration**

このセクションでは、スーパー I/O チップ上の情報を提供し、シリアルポートを設定します。

☞ **Serial Port A**

オンボードシリアルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

▶ **Intel(R) Smart Connect Technology**

☞ **ISCT Configuration**

Intel® Smart Connect Technology の有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)

▶ **Intel(R) Ethernet Network Connection (LAN1)**

このサブメニューは、LAN 構成と関連する構成オプションの情報を提供します。

2-7 Power Management (電力管理)



- **Power Loading**
ダミーローディング機能の有効/無効を切り替えます。パワーサプライユニットのローディングが低いためにシステムのシャットダウンや起動に失敗する場合は、有効に設定してください。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Resume by Alarm**
任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値:Disabled)
有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:
 - ▶▶ Wake up day:ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。
 - ▶▶ Wake up hour/minute/second:自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。注:この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたはAC電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。
- **Wake on LAN**
呼び起こしLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- **Soft-Off by PWR-BTTON**
電源ボタンでMS-DOSモードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。
 - ▶▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)
 - ▶▶ Delay 4 Sec. パワーボタンを4秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して4秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。
- **RC6(Render Standby)**
オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値:Enabled)
- **AC BACK**
AC電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。
 - ▶▶ Always Off AC電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。(既定値)
 - ▶▶ Always On AC電源が戻るとシステムの電源はオンになります。

▶▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。

⌘ Power On By Keyboard

PS/2 キーボードのからの入力によりシステムの電源をオンにすることが可能です。

注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)

▶▶ Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。

▶▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。

▶▶ Password 1-5 文字でシステムをオンスするためのパスワードを設定します。

⌘ Power On Password

Power On By Keyboard が **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。

このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注:パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

⌘ Power On By Mouse

PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。

注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)

▶▶ Move マウスを移動させてシステムの電源をオンにします。

▶▶ Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

⌘ ErP

S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値: Disabled)

注:このアイテムを **Enabled** に設定すると、次の機能が使用できなくなります。PME イベントからの起動、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LAN からの起動。

⌘ Platform Power Management

有効またはアクティブ状態の電源管理機能 (ASPM) を無効にします。(既定値: Disabled)

⌘ PEG ASPM

CPUのPEG/バスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合のみ設定が可能です。(既定値: Auto)

⌘ PCIe ASPM

チップセットのPCI Express/バスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合のみ設定が可能です。(既定値: Auto)

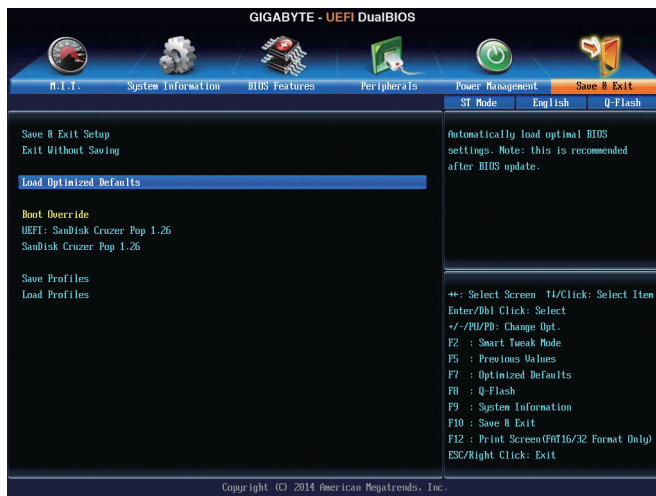
⌘ CPU DMI Link ASPM Control

DMIリンクのCPU側のためのASPMモードを設定することができます。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合のみ設定が可能です。(既定値: L0sL1)

⌘ PCH DMI Link ASPM Control

CPU側およびDMIリンクのチップセット側の両方にASPMモードを設定することができます。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合のみ設定が可能です。(既定値: Enabled)

2-8 Save & Exit (保存して終了)



- **Save & Exit Setup**

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- **Exit Without Saving**

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- **Load Optimized Defaults**

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。
- **Boot Override**

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes** を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。
- **Save Profiles**

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1 ~ セットアッププロファイル 8 として保存することができます。<Enter> を押して終了します。または **Select File in HDD/USB/FDD** を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。
- **Load Profiles**

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押して完了します。**Select File in HDD/USB/FDD** を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

第3章 SATA ハードドライブの設定

RAIDレベル

	RAID 0	RAID 1	RAID 5	RAID 10
ハードドライブの最小数	≥2	2	≥3	≥4
アレイ容量	ハードドライブの数 * 最小ドライブのサイズ	最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数 - 1) * 最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数 / 2) * 最小ドライブのサイズ
耐故障性	いいえ	はい	はい	はい

SATA ハードドライブを設定するには、以下のステップに従ってください：

- コンピュータに SATA ハードドライブを取り付ける。
- BIOS セットアップで SATA コントローラーモードを設定します。
- RAID BIOS で RAID アレイを設定します。(注1)
- SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールします。(注2)

始める前に

- 少なくとも 2 台の SATA ハードドライブ (最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを 2 台使用することをお勧めします)。RAID を使用しない場合、準備するハードドライブは 1 台のみでご使用下さい。
- Windows セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USB メモリドライブ。

3-1 SATA コントローラーを構成する

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

SATA 信号ケーブルの一方の端を SATA ハードドライブの背面に、もう一方の端をマザーボードの空いている SATA ポートに接続します。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクタを接続します。

(注1) SATA コントローラーで RAID を作成しない場合、このステップをスキップしてください。

(注2) SATA コントローラーが AHCI または RAID モードに設定されているときに要求されません。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラーモードを設定する

SATA コントローラーコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。

ステップ 1:

コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト) 中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。Peripherals/SATA Configuration に移動します。Integrated SATA Controller が有効であることを確認してください。RAID を作成するには、SATA Mode Selection を RAID にします (図 1)。RAID を作成しない場合、この項目を IDE または AHCI に設定します。



図 1

ステップ 2:

UEFI RAID を構成する場合は「C-1」のステップに従ってください。従来の RAID ROM に入るには、設定を保存して BIOS セットアップを終了します。詳細情報については「C-2」を参照してください。



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なる場合があります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C-1. UEFI RAID の設定

Windows 8.1/8 64bitのみUEFI RAID構成をサポートしています。

ステップ 1:

BIOS セットアップで、BIOS Features に移動し、Windows 8 Features を Windows 8 に、CSM Support を Never に設定します。変更を保存し、BIOS セットアップを終了します。



図 2

ステップ 2:

システムの再起動後、再度 BIOS セットアップに入ります。続いて Peripherals\Intel(R) Rapid Storage Technology サブメニューに入ります (図 3)。



図 3

ステップ 3:

Intel(R) Rapid Storage Technology メニューにおいて、**Create RAID Volume** で<Enter>を押して**Create RAID Volume** 画面に入ります。Name の項目で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter>を押します。次に、RAID レベルを選択します (図 4)。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、リカバリ、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。次に、下矢印キーを用いて **Select Disks** に移動します。



図 4

ステップ 4:

Select Disks の項目で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。選択するハードドライブ上で <スペース> キーを押します (選択したハードドライブには "X" の印が付きます)。ストライプブロックサイズ (図 5) を設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択したら、容積容量を設定します。



図 5

ステップ 5:

容量を設定後、**Create Volume** に移動し、<Enter> を押して開始します (図 6)。



図 6

完了すると、**Intel(R) Rapid Storage Technology** 画面に戻ります。**RAID Volumes** に新しい RAID ボリュームが表示されます。詳細情報を見るには、ボリューム上で <Enter> を押して RAID レベルの情報、ストライプブロックサイズ、アレイ名、アレイ容量などを確認します (図 7)。



図 7

RAIDボリュームを削除する

RAID アレイを削除するには、**Intel(R) Rapid Storage Technology** 画面において削除するボリューム上で <Enter> を押します。**RAID VOLUME INFO** 画面に入ったら、**Delete** で <Enter> を押して **Delete** 画面に入ります。**Yes** で <Enter> を押します (図 8)。

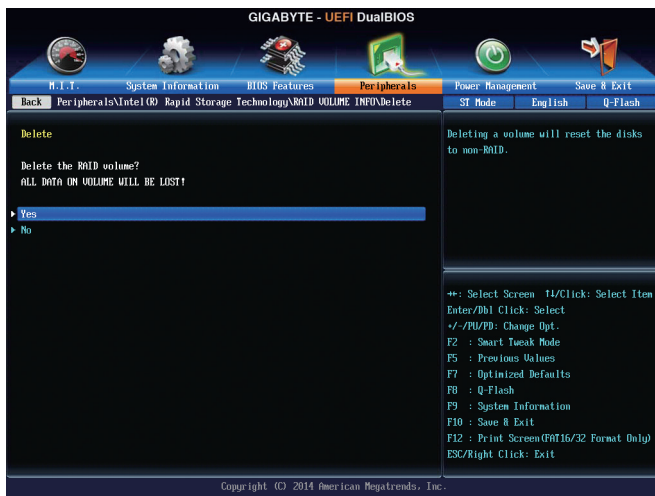


図 8

C-2. Legacy RAID ROMを設定する

Intel® legacy RAID BIOS セットアップユーティリティに入って、RAID アレイを設定します。非 RAID 構成の場合、このステップをスキップし、Windows オペレーティングシステムのインストールに進んでください。

ステップ 1:

POSTメモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「Press <Ctrl>-> to enter Configuration Utility」(図 9)。<Ctrl> + <I>を押して RAID 設定ユーティリティに入ります。

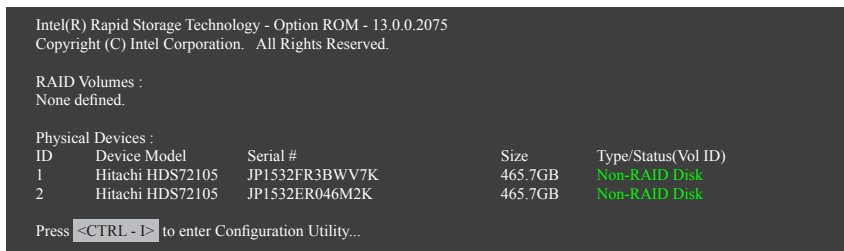


図 9

ステップ 2:

<Ctrl> + <I> を押すと、MAIN MENU スクリーンが表示されます。(図 10)

RAIDボリュームを作成する

RAID アレイを作成する場合、MAIN MENU で **Create RAID Volume** を選択し <Enter> を押します。

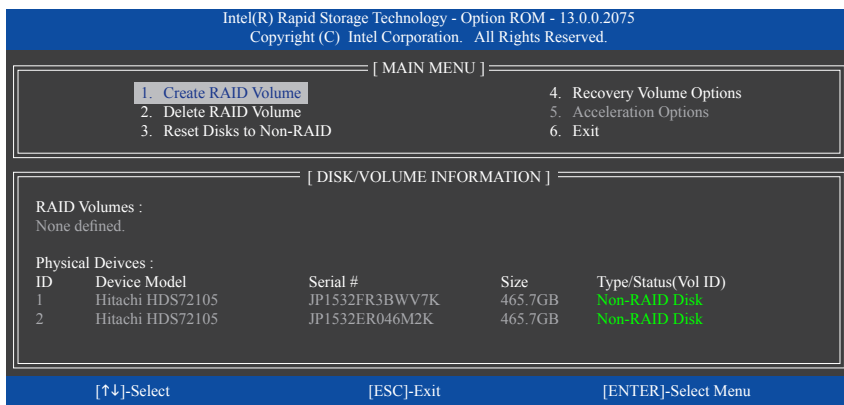


図 10

ステップ 3:

CREATE VOLUME MENU スクリーンに入った後、**Name** の項目で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。次に、RAID レベルを選択します (図 11)。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、リカバリ、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。<Enter> を押して続行します。

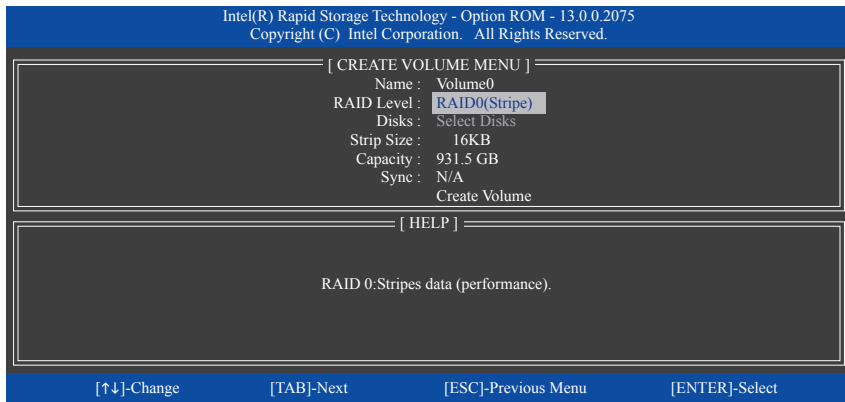


図 11

ステップ 4:

Disks の項目で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。取り付けたドライブが 2 台のみの場合、ドライブはアレイに自動的に割り当てられます。必要に応じて、ストライプブロックサイズ (図 12) を設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択してから、<Enter> を押します。

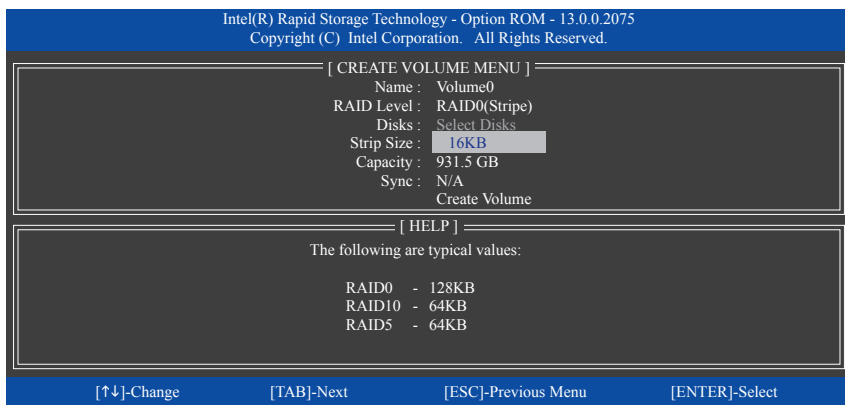


図 12

ステップ 5:

アレイの容量を入力し、<Enter> を押します。最後に、**Create Volume** で <Enter> を押し、RAID アレイの作成を開始します。ボリュームを作成するかどうかの確認を求められたら、<Y> を押して確認するか <N> を押してキャンセルします (図 13)。

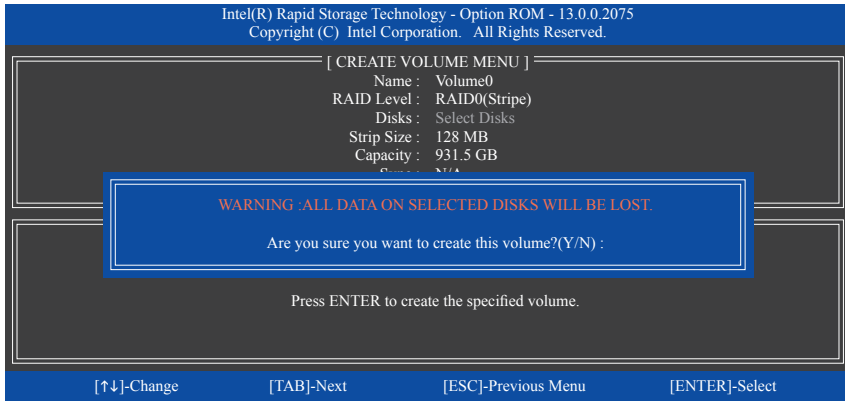


図 13

完了したら、**DISK/VOLUME INFORMATION** セクションに、RAID レベル、ストライプブロックサイズ、アレイ名、およびアレイ容量などを含め、RAID アレイに関する詳細な情報が表示されます (図 14)。

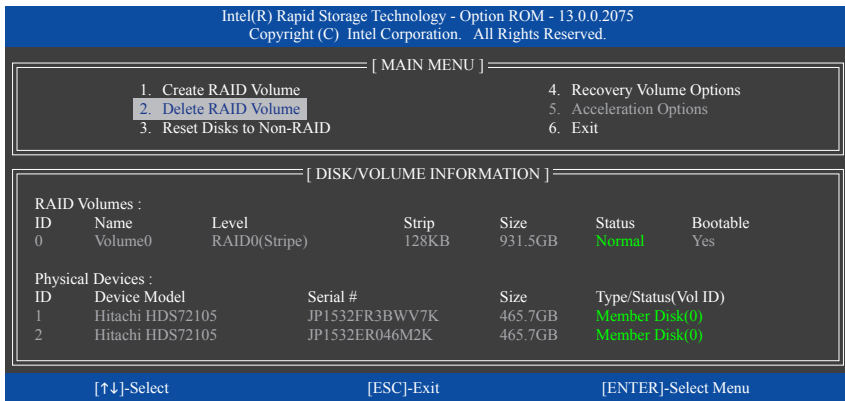


図 14

RAID BIOS ユーティリティを終了するには、<Esc> を押すか **MAIN MENU** で **6. Exit** を選択します。

これで、SATA RAID/AHCI ドライバディスクを作成し、SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールできるようになりました。

リカバリボリュームオプション

Intel® Rapid Recover Technologyでは指定されたリカバリドライブを使用してデータとシステム操作を容易に復元できるようにすることで、データを保護しています。Rapid Recovery Technologyでは、RAID 1 機能を採用しているため、マスタードライブからリカバリドライブにデータをコピーすることができます。必要に応じて、リカバリドライブのデータをマスタードライブに復元することができます。

始める前に:

- リカバリドライブは、マスタードライブより大きな容量にする必要があります。
- リカバリボリュームは、2 台のハードドライブがある場合のみ作成できます。リカバリボリュームと RAID アレイはシステムに同時に共存することはできません。つまり、リカバリボリュームがすでに作成されている場合、RAID アレイを作成できません。
- デフォルトで、オペレーティングシステムにはマスタードライブのみが表示されます。リカバリドライブは非表示にされています。

ステップ 1:

MAIN MENU で **Create RAID Volume** を選択し、<Enter>を押します (図 15)。

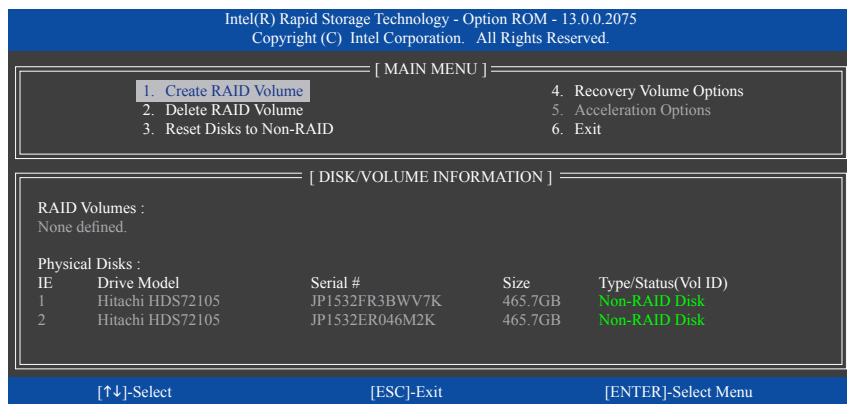


図 15

ステップ 2:

ボリューム名を入力した後、RAID Level アイテムの下で **Recovery** を選択し <Enter>を押します (図 16)。

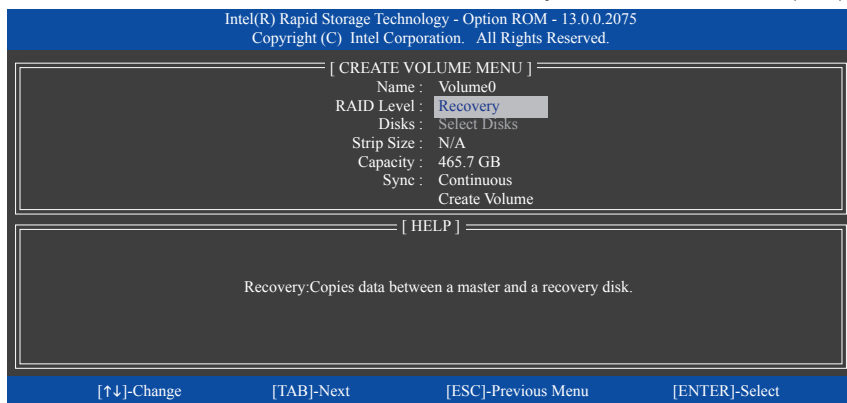


図 16

ステップ 3:

Select Disks アイテムの下で、<Enter>を押します。**SELECT DISKS** ボックスで、マスタドライブに対して使用するハードドライブには<Tab>を押し、リカバリドライブに対して使用するハードドライブには <Space> を押します。(リカバリドライブの容量がマスタドライブの容量より大きいことを確認してください) <Enter>を押して確認します (図 17)。

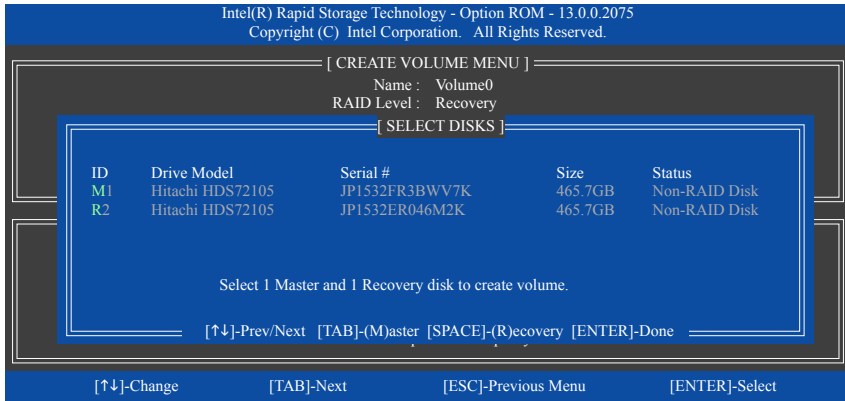


図 17

ステップ 4:

Sync の項目を、**Continuous** または **On Request** を選択します (図 18)。**Continuous** に設定されているとき、両方のハードドライブがシステムに取り付けられていれば、マスタドライブのデータを変更するとその変更はリカバリドライブに自動的にかつ連続してコピーされます。**On Request** では、オペレーティングシステムの Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティを使用してマスタドライブからリカバリドライブに手動でデータを更新できます。**On Request** では、マスタドライブを以前の状態に復元することもできます。

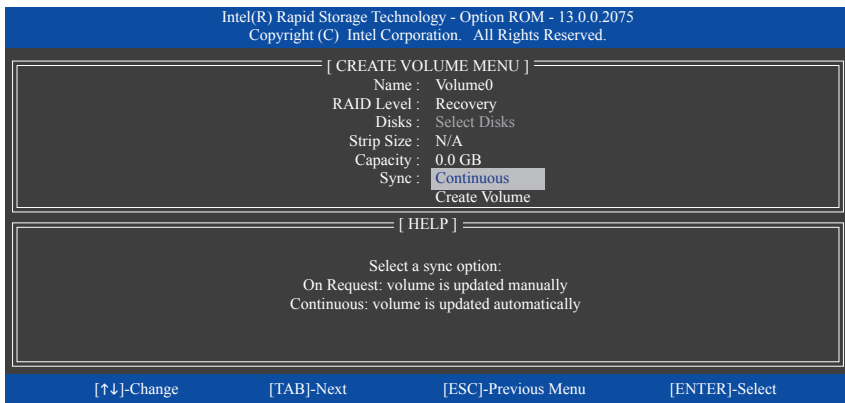


図 18

ステップ 5:

最後に、**Create Volume** の項目で <Enter> を押してリカバリボリュームの作成を開始し、オンスクリーンの指示に従って完了します。

Delete RAID Volume

RAID アレイを削除するには、**MAIN MENU** で **Delete RAID Volume** を選択し、<Enter> を押します。**DELETE VOLUME MENU** セクションで、上または下矢印キーを使用して削除するアレイを選択し、<Delete> を押します。選択を確認するように求められたら (図 19)、<Y> を押して確認するか <N> を押して中断します。

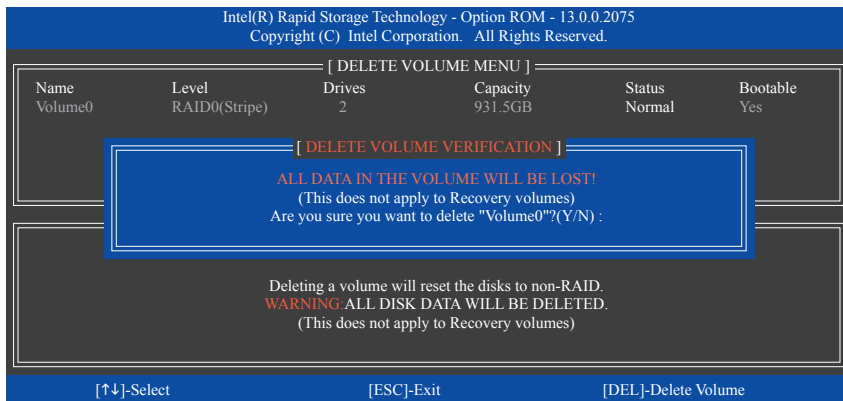


図 19

Acceleration Options

このオプションにより、Intel® IRSTユーティリティを使用して作成された高速化ドライブ/ボリューム (図 20) の状態を表示できるようになります。アプリケーションエラーまたはオペレーティングシステムの問題によりIntel® IRSTユーティリティを動作させることができなくなった場合は、RAID ROMユーティリティにあるこのオプションを使用して、高速化をなくすかまたは手動で同期を有効にする必要があります (最大化モードのみ)。

ステップ:

Acceleration Options で **MAIN MENU** を選択し、<Enter> を押します。

高速化をなくすために、高速化するドライブ/ボリュームを選択してから <R> を押し、<Y> で確定します。

キャッシュデバイスと高速化ドライブ/ボリュームのデータを同期するには、<S> を押してから <Y> を押して確定します。

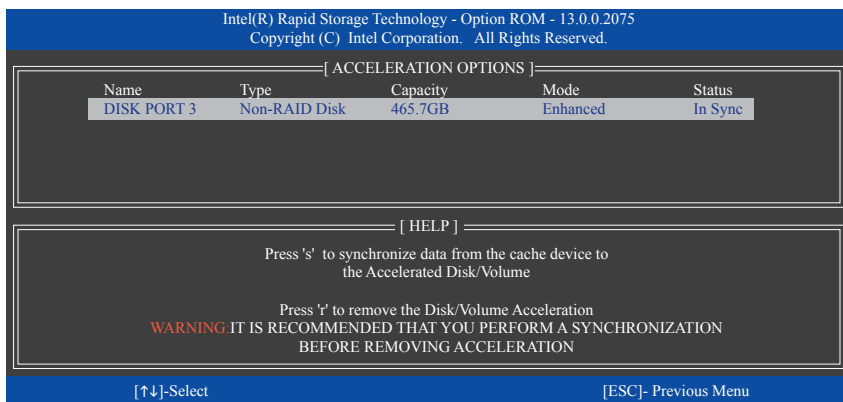


図 20

3-2 SATA RAID/AHCI ドライバーとオペレーティングシステムのインストール

BIOS設定が正しければ、オペレーティングシステムをいつでもインストールできます。

A. オペレーティングシステムをインストール

Windows 7 にはすでに Intel SATA RAID/AHCI ドライバが含まれているため、Windows のインストールプロセスの間、RAID/AHCI を個別にインストールする必要はありません。オペレーティングシステムのインストール後、「Xpress Install」を使用してマザーボードドライバディスクから必要なドライバをすべてインストールして、システムパフォーマンスと互換性を確認するようにお勧めします。Windows 8.1/8 をインストールするには以下のステップを参照してください。

ステップ 1:

ドライバディスクの **BootDrv** にある **IRST** フォルダをお使いの USB メモリドライブにコピーします。

ステップ 2:

Windows 8.1/8 セットアップディスクからブートし、標準の OS インストールステップを実施します。画面でドライバを読み込んでくださいという画面が表示されたら、**Browse** を選択します。

ステップ 3:

次に、USB フラッシュドライブを閲覧して、ドライバの場所を選択します。ドライバの場所は次の通りです。

Windows 32 ビット: \IRST\32Bit

Windows 64 ビット: \IRST\64Bit

ステップ 4:

図 1 に示した画面が表示されたら、**Intel(R) Desktop/Workstation/Server Express Chipset SATA RAID Controller** を選択し、**Next** をクリックしてドライバをロードし OS のインストールを続行します。

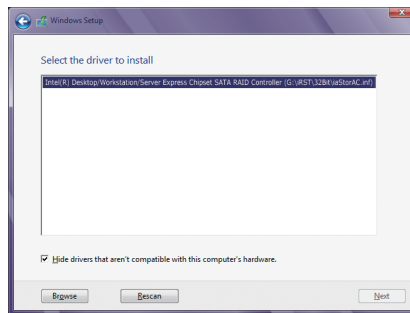


図 1

B. アレイを再構築する

再構築は、アレイの他のドライブからハードドライブにデータを復元するプロセスです。再構築は、RAID 1、RAID 5、RAID 10 アレイに対してのみ、適用されます。以下の手順では、新しいドライブを追加して故障したドライブを交換し RAID 1 アレイに再構築するものとします。(注:新しいドライブは古いドライブより大きな容量にする必要があります。)

コンピュータの電源をオフにし、故障したハードドライブを新しいものと交換します。コンピュータを再起動します。

• 自動再構築を有効にする

ステップ 1:

「Press <Ctrl-I> to enter Configuration Utility」というメッセージが表示されたら、<Ctrl> + <I> を押して RAID 構成ユーティリティに入ります。RAID 構成ユーティリティに入ると、次の画面が表示されます。

Intel(R) Rapid Storage Technology - Option ROM - 13.0.0.2075
Copyright (C) Intel Corporation. All Rights Reserved.

[MAIN MENU]

[DEGRADED VOLUME DETECTED]

"Degraded volume and disk available for rebuilding detected. Selecting a disk initiates a rebuild. Rebuild completes in the operating system.

Select the port of the destination disk for rebuilding (ESC to exit):

ID	Drive Model	Serial #	Size
1	Hitachi HDS721050CLA	JP1532FR3ABMPK	465.7GB

[↑↓]-Previous/Next [ENTER]-Select [ESC]-Exit

[↑↓]-Select [ESC]-Exit [ENTER]-Select Menu

ステップ 2:

新しいハードドライブを選択して再構築するアレイに追加し、<Enter> を押します。オペレーティングシステムに入ると、自動再構築が実行されますという次の画面が表示されます。この段階で自動再構築を有効にしないと、オペレーティングシステムでアレイを手動で再構築する必要があります (詳細については、次のページを参照してください)。

Intel(R) Rapid Storage Technology - Option ROM - 13.0.0.2075
Copyright (C) Intel Corporation. All Rights Reserved.

[MAIN MENU]

1. Create RAID Volume
2. Delete RAID Volume
3. Reset Disks to Non-RAID
4. Recovery Volume Options
5. Acceleration Options
6. Exit

[DISK/VOLUME INFORMATION]

RAID Volumes :

ID	Name	Level	Strip	Size	Status	Bootable
0	Volume0	RAID1(Mirror)	N/A	465.7GB	Rebuild	Yes

Physical Devices :

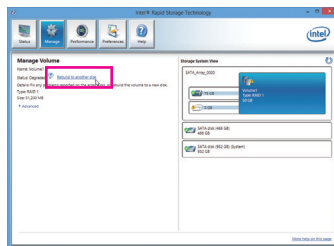
ID	Devices Model	Serial #	Size	Type/Status(Vol ID)
0	Hitachi HDS72105	JP1532FR3BWV7K	465.7GB	Member Disk (0)
1	Hitachi HDS72105	JP1532FR3ABMPK	465.7GB	Member Disk (0)

Volumes with "Rebuild" status will be rebuilt within the operating system.

[↑↓]-Select [ESC]-Exit [ENTER]-Select Menu

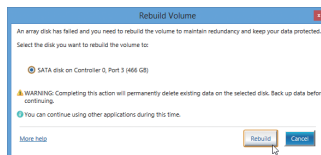
・オペレーティングシステムで再構築を実行する

オペレーティングシステムに入っている間に、チップセットドライバがマザーボードドライバディスクからインストールされていることを確認します。デスクトップから Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティを起動します。



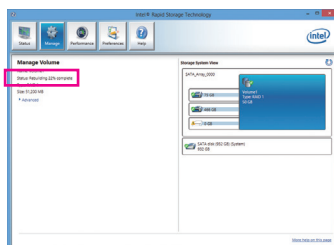
ステップ 1:

Manageメニューに移動し、Manage VolumeでRebuild to another diskをクリックします。

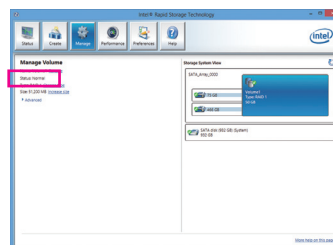


ステップ 2:

新しいドライブを選択してRAIDをリビルドし、Rebuildをクリックします。



画面左のStatus項目にリビルド進捗状況が表示されます。



ステップ 3:

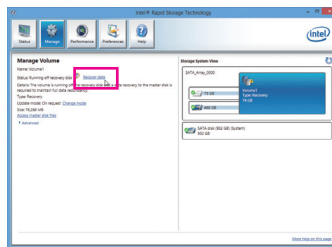
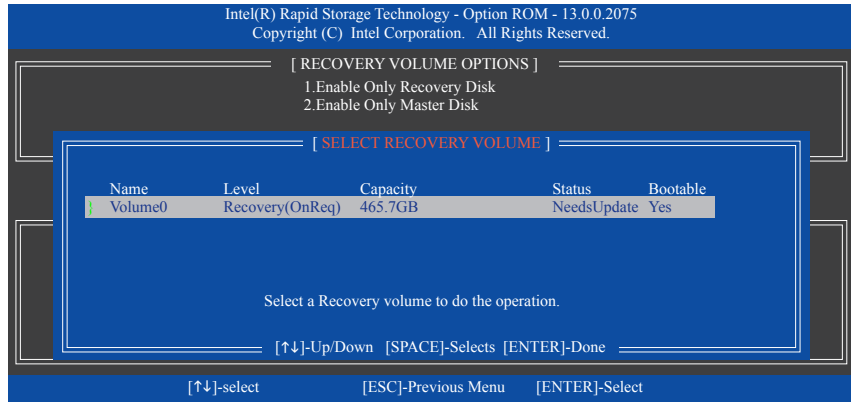
RAID ボリュームを再構築した後、StatusにNormalとして表示されます。

・ マスタドライブを以前の状態に復元する (リカバリボリュームの場合のみ)

要求に応じて更新するモードで2台のハードドライブをリカバリボリュームに設定すると、必要に応じてマスタドライブのデータを最後のバックアップ状態に復元できます。たとえば、マスタドライブがウイルスを検出すると、リカバリドライブのデータをマスタドライブに復元することができます。

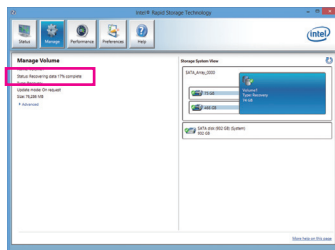
ステップ 1:

Intel® RAID構成ユーティリティのMAIN MENUで**4. Recovery Volume Option**を選択します。**RECOVERY VOLUMES OPTIONS**メニューで、**Enable Only Recovery Disk**を選択してオペレーティングシステムのリカバリドライブを表示します。オンスクリーンの指示に従って完了し、RAID構成ユーティリティを終了します。

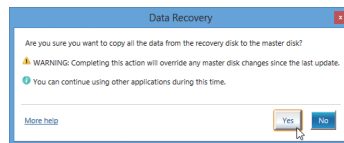


ステップ 2:

Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティの **Manage** メニューに移動し、**Manage Volume** で **Recover data** をクリックします。

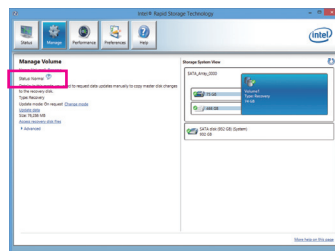


画面左の**Status**項目にリビルド進捗状況が表示されます。



ステップ 3:

Yes をクリックして、データの復元を開始します。



ステップ 4:


リカバリボリュームが完了した後、**Status** に **Normal** として表示されます。

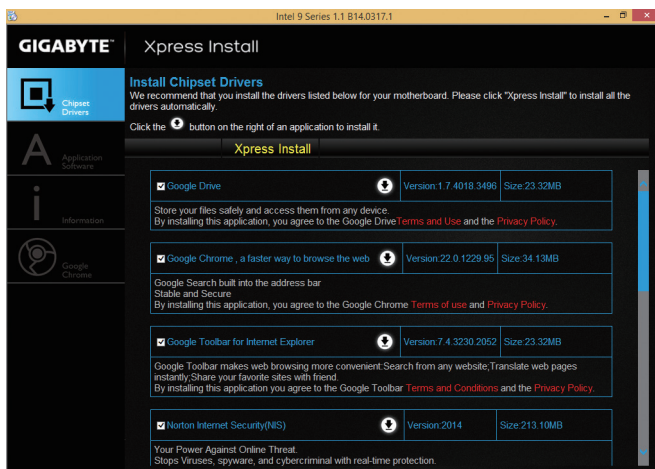
第4章 付録

ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。(以下の指示は、例として Windows 8.1 オペレーティングシステムを使用します。)
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。画面右上隅のメッセージ「このディスクの操作を選択するにはタップしてください」をクリックし、「Run.exeの実行」を選択します。(またはマイコンピュータで光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

「Xpress Install」はシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。Xpress Install ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が選択されたすべてのドライバをインストールします。または、矢印  アイコンをクリックすると、必要なドライバを個別にインストールします。



ソフトウェアについては、GIGABYTEのウェブサイトアクセスしてください。

規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることとなります。当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとしています。しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに對する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS(電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE(廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にあるいは梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃棄物を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃棄物を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装(運送用コンテナを含む)をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋立てごみ処理場の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。

FCC Notice (U.S.A. Only)

This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult a dealer or experienced TV/radio technician for help.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Neither the Dealer nor the Manufacturer are responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

CAUTION:

Any changes or modifications not expressly approved by the grantee of this device could void the user's authority to operate the equipment.

Canada-Industry Canada (IC):

This device complies with RSS210 of Industry Canada.

Cet appareil se conforme à RSS210 de Canada d'Industrie.

Caution: When using IEEE 802.11a wireless LAN, this product is restricted to indoor use due to its operation in the 5.15- to 5.25-GHz frequency range. Industry Canada requires this product to be used indoors for the frequency range of 5.15 GHz to 5.25 GHz to reduce the potential for harmful interference to co-channel mobile satellite systems. High power radar is allocated as the primary user of the 5.25- to 5.35-GHz and 5.65 to 5.85-GHz bands. These radar stations can cause interference with and/or damage to this device.

The maximum allowed antenna gain for use with this device is 6dBi in order to comply with the E.I.R.P limit for the 5.25- to 5.35 and 5.725 to 5.85 GHz frequency range in point-to-point operation.

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003, Issue 4, and RSS-210, No 4 (Dec 2000) and No 5 (Nov 2001).

"To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing."

Attention : l'utilisation d'un réseau sans fil IEEE802.11a est restreinte à une utilisation en intérieur à cause du fonctionnement dans la bande de fréquence 5.15-5.25 GHz. Industry Canada requiert que ce produit soit utilisé à l'intérieur des bâtiments pour la bande de fréquence 5.15-5.25 GHz afin de réduire les possibilités d'interférences nuisibles aux canaux co-existants des systèmes de transmission satellites. Les radars de puissances ont fait l'objet d'une allocation primaire de fréquences dans les bandes 5.25-5.35 GHz et 5.65-5.85 GHz. Ces stations radar peuvent créer des interférences avec ce produit et/ou lui être nuisible.

Le gain d'antenne maximum permissible pour une utilisation avec ce produit est de 6 dBi afin d'être conforme aux limites de puissance isotropique rayonnée équivalente (P.I.R.E.) applicable dans les bandes 5.25-5.35 GHz et 5.725-5.85 GHz en fonctionnement point-à-point.
Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003, No. 4, et CNR-210, No 4 (Dec 2000) et No 5 (Nov 2001).

« Pour empêcher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit être utilisé à l'intérieur et devrait être placé loin des fenêtres afin de fournir un écran de blindage maximal. Si le matériel (ou son antenne d'émission) est installé à l'extérieur, il doit faire l'objet d'une licence. »

European Community Directive R&TTE Directive Compliance Statement:

This equipment complies with all the requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC of the European Parliament and the Council of March 9, 1999 on Radio Equipment and Telecommunication Terminal Equipment (R&TTE).

This equipment is suitable for home and office use in all the European Community Member States and EFTA Member States.

The low band 5.15 -5.35 GHz is for indoor use only.

France:

Pour la France métropolitaine

2.400 - 2.4835 GHz (Canaux 1 à 13) autorisé en usage intérieur

2.400 - 2.454 GHz (canaux 1 à 7) autorisé en usage extérieur

Pour la Guyane et la Réunion

2.400 - 2.4835 GHz (Canaux 1 à 13) autorisé en usage intérieur

2.420 - 2.4835 GHz (canaux 5 à 13) autorisé en usage extérieur

Italy:

The use of these equipments is regulated by:

1. D.L.gs 1.8.2003, n. 259, article 104 (activity subject to general authorization) for outdoor use and article 105 (free use) for indoor use, in both cases for private use.
2. D.M. 28.5.03, for supply to public of RLAN access to networks and telecom services.

L'uso degli apparati è regolamentato da:

1. D.L.gs 1.8.2003, n. 259, articoli 104 (attività soggette ad autorizzazione generale) se utilizzati al di fuori del proprio fondo e 105 (libero uso) se utilizzati entro il proprio fondo, in entrambi i casi per uso private.
2. D.M. 28.5.03, per la fornitura al pubblico dell'accesso R-LAN alle reti e ai servizi di telecomunicazioni.

Taiwan NCC Wireless Statements / 無線設備警告聲明:

低功率電波輻射性電機管理辦法

第十二條: 經型式認證合格之低功率射頻電機, 非經許可, 公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

第十四條: 低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信; 經發現有干擾現象時, 應立即停用, 並改善至無干擾時方得繼續使用。

前項合法通信, 指依電信法規定作業之無線電通信。

低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

低功率射頻電機技術規範

4.7: 在5.25-5.35赫茲頻帶內操作之無線資訊傳輸設備, 限於室內使用。

Korea KCC NCC Wireless Statement:

5.25GHz - 5.35 GHz 대역을 사용하는 무선 장치는 실내에서만 사용하도록 제한됩니다.

Japan Wireless Statement:

5.15GHz帯 ~ 5.35GHz帯: 屋内のみの使用。



連絡先

• GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス: No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist.,
New Taipei City 231, Taiwan

TEL: +886-2-8912-4000

FAX: +886-2-8912-4005

技術および非技術。サポート (販売/マーケティング):

<http://ggts.gigabyte.com.tw>

WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

• G.B.T.INC. - U.S.A.

TEL: +1-626-854-9338

FAX: +1-626-854-9326

技術サポート: <http://ggts.gigabyte.com.tw>

保証情報: <http://rma.gigabyte.us>

Webアドレス: <http://www.gigabyte.us>

• G.B.T.INC (USA) - メキシコ

Tel: +1-626-854-9338 x 215 (Soporte de habla hispano)

FAX: +1-626-854-9326

Correo: soporte@gigabyte-usa.com

技術サポート: <http://rma.gigabyte.us>

Webアドレス: <http://latam.giga-byte.com>

• Giga-Byte SINGAPORE PTE.LTD. - シンガポール

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.sg>

• タイ

WEBアドレス: <http://th.giga-byte.com>

• ベトナム

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.vn>

• NINGBO G.B.T.TECH.TRADING CO., LTD. - 中国

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.cn>

上海

TEL: +86-21-63400912

FAX: +86-21-63400682

北京

TEL: +86-10-62102838

FAX: +86-10-62102848

武漢

TEL: +86-27-87685981

FAX: +86-27-87579461

広州

TEL: +86-20-87540700

FAX: +86-20-87544306

成都

TEL: +86-28-85483135

FAX: +86-28-85256822

西安

TEL: +86-29-85531943

FAX: +86-29-85510930

瀋陽

TEL: +86-24-83992342

FAX: +86-24-83992102

• GIGABYTE TECHNOLOGY (INDIA) LIMITED - インド

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.in>

• サウジアラビア

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.sa>

• Gigabyte Technology Pty. Ltd. - オーストラリア

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.au>

- **G.B.T.TECHNOLOGY TRADING GMBH - ドイツ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.de>

- **G.B.T.TECH.CO., LTD. - U.K.**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.co.uk>

- **Giga-Byte Technology B.V. - オランダ**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.nl>

- **GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCE - フランス**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.fr>

- **スウェーデン**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.se>

- **イタリア**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.it>

- **スペイン**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.es>

- **ギリシャ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.gr>

- **チェコ共和国**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.cz>

- **ハンガリー**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.hu>

- **トルコ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.tr>

- **ロシア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.ru>

- **ポーランド**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.pl>

- **ウクライナ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.ua>

- **ルーマニア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.ro>

- **セルビア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.co.rs>

- **カザフスタン**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.kz>

GIGABYTE Webサイトにアクセスし、Webサイトの右上にある言語リストで言語を選択することができます。

- **GIGABYTEグローバルサービスシステム**



技術的または技術的でない(販売/マーケティング) 質問を送信するには:

<http://ggts.gigabyte.com.tw>

にアクセスし、言語を選択してシステムに入ってください。